Childline Annual Report 2022

2022チャイルドライン年次報告

特定非営利活動法人
チャイルドライン支援センター（認定NPO）

2022 チャイルドライン年次報告　目次

ごあいさつ ………… 1
はじめに ………… 2
チャイルドラインを「聴かれる権利」と「子どもアドボカシー」の視点から考える ………… 3
チャイルドラインとは ………… 9
子どもが気持ちを書き込む場「つぶやく」 ………… 12
データからみえる子どもの今 ………… 14
子どもへの広報 ………… 30
パブリシティ ………… 33
チャイルドライン実施体制と運営 ………… 34
ご支援・ご協力一覧 ………… 38
2021年度トピックス ………… 40
編集後記

※百分率で表しているデータは四捨五入の関係で合計が100%にならないことがあります。
※事例は、個人が特定できないようプライバシーに配慮して再構成しています。
※「子どもからの質問・意見・感想」はチャイルドラインのウェブサイトを通じて寄せられたものです（公表することを明記し募集しています）。

ごあいさつ

「チャイルドライン」は、全国で子どもの問題に取り組もうとする人たちのボランタリーな活動として、1990 年代にスタートし今日に至っています。この間、多くの団体や行政が様々な策を講じているにもかかわらず、子どもたちの現状は、虐待や自殺などが増加しており、チャイルドラインには毎日「死にたい、消えたい」という悲痛な声が届きます。ひとりでも多くの子どもに寄り添いたいと思いながらも、近年はコロナ禍の影響で、活動縮小や担い手減少などの困難に直面していました。

そんな中、ひとりの子からこんな質問が届きました。「相談員の方々は、悲しい話、辛い話をききすぎて辛い思いが続いたりしませんか?」初めはわたしたちが子どもに心配される存在になってしまったのかと思いましたが、読み返すうちにその子のやさしさが伝わってきて、子どもと共にあるチャイルドラインを実感し、励まされる思いがしました。

設立から20年以上を経たチャイルドライン支援センターは、この数年間、子どもたちの声を聴くための新たな取り組みについての実践を重ねてきました。この報告書でその一端をご覧いただければ幸いです。

これまで子どもたちの声を聴き続けてきた矜持と責任感をもって、全国のチャイルドライン実施団体との協働のもと、持続可能なチャイルドラインを目ざしてまいります。

今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

チャイルドライン支援センター
代表理事　小林 純子

戦争は、人の権利がもっとも侵害される行為、この年次報告を読んでくださっているとき、戦争は終わっているでしょうか?毎日のように人の死、子どもの死の報道を私たちは、見聞きします。ウクライナの少女が言っていました。「つらいけれど、私は見続けます。それが私の責任だから」と。

日本の私たちに何ができるでしょうか?ウクライナに行って助けますか?
世界はもとより日本全国の子どもたちというのも、実感としては遠い感じがしますね。私たちの身近な地域の子どもたちが、見えないところで、毎日権利侵害を受けています。その延長線上に全ての子どもたちが生きているのです。

その子は、どうしたいのでしょう?おとなの都合ではなく、その子の「私はこうしたい」に関心を持って聴いてみたことはあるでしょうか?子どもの身近なおとなになっているでしょうか?自問自答は絶えません。

子どもたちひとり一人の思いや願いを受けとめていると自負しているチャイルドラインは、この年次報告を編集し、みなさまにお届けすることで、子どもの「声」の社会発信をさせていただきます。少しでも、行政、関係機関、NPO、市民のみなさまの心に届くことを願っています。

チャイルドライン支援センター
代表理事　竹村 浩

はじめに

２０２０年1月に、日本国内で初の感染者が確認されてから今日まで、新型コロナウイルス感染症の流行はとどまるところを知らず、ウイルスは次々と変異し、私たちの日常をかつて経験したことがないものに変えてしまいました。

人と人とがふれあうことが制限される中で、おとなも子どもも苛立ちや寂しさを感じることが多くなり、漠然とした不安や閉塞感にとらわれているように感じます。その影響は、虐待や子どもの自殺などの激増につながっているのではないでしょうか。

その上２０２２年2月にはロシアによるウクライナ侵攻が始まり、私たちは連日メディアで報道される悲惨な光景を目にすることとなりました。どんな理由があっても他人の命を奪う行為は許してはならないと思いながら、空しく画面を見つめるしかない自分たちの非力を突き付けられる毎日です。

このような中、23 年間日本の子どもたちの声を聴き続けてきたチャイルドラインが、今行うべきことは、世の中がどんな状況にあっても、チャイルドラインは子どもたちと共にあることを約束し、希望につなげていくことではないでしょうか。

２０２２年4月1日、日本で１８歳を成人とする法律が施行されました。世界の国々では１８歳を成人としているところが多く、日本がやっと追いついたという状況なのですが、子どもたちの反応は「おとなと言われてもピンとこない」「おとなとして責任ある行動がとれるようにがんばる」など、まちまちです。

子ども時代を子どもとして十分生きてこそ、真のおとなになる―子どもの権利条約では子どもとしての権利を保障することの重要性を記しています。そのことを証明するように、私たちが日々チャイルドラインで受けとめている子どもたちの声からは、悲しみ、苦しみ、悩み、絶望しながらも、自分で考え、次に向かっていく確かな力と成長を感じることができます。

私たちはこれからも、子どもたちの力を信じ、子どもたちと共に現在を生き、次の世代へと生命をつなぐ努力を重ねていきたいと思います。

チャイルドラインのミッション

子どもの権利条約の理念に基づき、子どもの「声」を受けとめることで、
子どもがありのままで安心できる心の居場所を作ります。
また、受けとめた「声」を社会に発信し、子どもが生きやすい社会を目指します。

チャイルドライン支援センター代表理事　竹村　浩

子どもアドボカシーを学んでいく中で、「子どもの心の声を聴く」堀正嗣著（岩波ブックレット）を読み進めるうちに「聴かれる権利」という視点に驚きました。恥ずかしい話ではありますが、第 12 条第 1 項「意見表明権」に関しては、私なりに承知していたつもりでしたが、そのことを保障する第 2 項には、正直注目していなかったのです。

「聴かれる権利」で、子どもの権利条約第 12 条第 2 項を読んだとき、まず思うことがあります。子どもは何について聞（聴）かれるのでしょう?その子自身の人生にとって大きく左右することだけでしょうか?司法や裁判における子どもの意見、意思が聴かれることは当然のことですが、子どもが私たちおとなと同様に市民である以上、社会的なものごとに子どもの意見が反映されていないことが問題です。つまり、聴かれる権利とは、子どもに直接関わることだけではなく、大きな意味で、多くのことについて、様々なあり方で聴かれる権利があるということです。（※ 1）「子ども」という社会的存在の地位を上げていくことも、チャイルドラインとしての使命となります。

子どもの権利条約第 3 条で謳われている「子どもの最善の利益」とはどういう意味でしょうか。周りのおとなが考える子どもの幸せは、当人の幸せでしょうか。否、なぜなら、その子どもの周りの親や先生、専門家、関係者がいくら「よかれ」と考え尽くしたとしても、当人が望んだことではありません。

2021 年、厚生労働省の子どもの権利擁護に関するワーキングチーム（※ 2）の、虐待を受けたり、親元で暮らせなかったりする当事者の意見を聴き、権利を守る「子どもアドボカシー」に関する提言で、子どもの意見を代弁する「意見表明支援員」（アドボケイト）の配置を促すなど、子ども虐待防止や新しい社会的養育ビジョンなどを考えるうえで、「子どもアドボカシー」という言葉が大きく注目されています。2016 年児童福祉法の改正を皮切りに、まず福祉の分野から「子どもの権利」が保障されつつあります。残念ながら、教育分野では子どもの権利という観点は、まだまだ受け入れがたいのではないかというのが、私の実感です。

チャイルドラインは、様々な子どもの「声」を受けとめています。利害関係にない第 3 者だからこそ聴ける、そして子どもの権利条約に基づき、子どもを権利の主体とした姿勢で傾聴することによって、子どもは何も気にすることなく（これが大切）話すことができます。それは、子どもの気持ちや意思そのものということが言えます。

チャイルドラインは、「子ども専用」の相談窓口です。この意味するところは、どのような気持ちなのか、自分の境遇をどのように捉えているのか、どうしていきたいのかを子ども自身に聴いているということです。ただ、（音を受け身で）聞いているということではなく、（心を傾けて気持ちを）聴いているのです。アクティブリスニングといわれる意味は、積極的傾聴、関わりを特徴としています。電話やチャットの一期一会の出会いであるにしても、いや、だからこそ、何の遠慮もなく、気持ちを吐き出し、落ち着き、整えていく。そんな作業に共感し、寄り添っていく。エンパワーメント（子どもにはチカラがある）していくことに付き合い、子ども自らが決断していく。チャイルドラインの真骨頂がそこにはあります。最も肝心なのが、決めるのは当人であるということ。そして、その気持ちや意思を、具体的に、明確に、自分自身がしっかりと形づくっていくためには、人の助け（関わり）がいるということです。

周りを慮って自分の行動を決めるのではありません。もちろん、周りの人や状況をはかったり配慮したりすることは大切なことではあります。その前提として、自分を大切にし、その意思に基づいて、他人の所為にせず責任を引き取れることが必要であるということ。これまで、人間社会を成り立たせてきた主体的で対等で協働的な関係性は、ほとんど崩れつつあるように思います。そういった人と人との関係性を取り戻し地域社会を再構築していくことが、チャイルドラインという活動とも言えます。

チャイルドラインは、受けとめた子どもの「声」から、子どもの状況を発信するだけではなく、あくまでも子どもの側に立ち、個別ではなくトータルとして、子どもがどうしたいのか、誰に何を訴えたいのか、何を変えたいのか、代弁していく必要があります。それが実現できるよう、子どもの意識を変える、受けとめられるように周りの環境を変える、おとなの意識を変える、子どもの参加を進めることを前提にして、社会に発信していくのです。

チャイルドラインを「聴かれる権利」と「子どもアドボカシー」の視点から考える

子どもアドボカシーの視点からチャイルドラインを考えてみましょう。あくまでも子どもの側に立つ（子どもにとって）という思想の上に、寄り添い、傾聴します。子どもには元々力があり、受けとめることでエンパワーメントしていきます。チャイルドラインはあくまでも匿名で、自己肯定感の低い日本の子どもたちに沿った形の、そして子どもに関わる地域の市民の活動として発足、発展させてきたのです。傾聴だからこそ、地域のボランティアが受け手となり、地域の再構築につながりました。今、ここに限界があるのでしょうか?極論で言えば、代弁することが目的（子どもの意思、意見を形づくるために聴く）なのか、聴いた結果として発信するのか、ここで聴き方が大きく変わることになります。日本の子どもたちの「聴かれる」ことへのニーズの中心は、どこにあるのでしょうか?変化してきたのでしょうか?疑問は募るばかりです。

チャイルドラインという活動を考えるとき、体制上最も特徴的な「支え手」という存在、また受け手（相談活動における相談員の役割）も個人の活動ではなく、組織としての社会的な活動であることがあげられます。つまり、傾聴することは勿論第一義的に大切なこと、ただし、受けとめたその「声」をどのように発信するのかということが問われるのです。逆に言えば、どのように聴くのかが、問われることになるでしょう。私たちが受けとめているのは個人の声ではなく、「子ども」という存在（社会的な）の「声」としての受けとめが必要でしょう。

日本では、世界で主流のチャイルドヘルプラインとは一線を画してきました。それは、20 年前の子どもの状況によることが大きいのではないでしょうか?では、これからのチャイルドラインは、どうあったらいいでしょうか?ぜひ、みなさんと共に考え合っていきたいと思います。

＜参考資料＞

※ 1. 意見を聴かれる子どもの権利に関する国連・子どもの権利委員会の一般的意見 12 号
「子どもの権利委員会　第 51 会期（2009 年 5 月 25 日～ 6 月 12 日）採択　CRC/C/GC/12　原文：英語　日本語訳：平野裕二」より
※ 2. 厚生労働省　子どもの権利擁護に関するワーキングチーム 2021
厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-kodomo_554389_00015.html

子どもアドボカシーとは？

イングランド保健省「子どもアドボカシーサービス提供のための全国基準」の１ページ目に掲載されている、児童養護施設入所中のヘレンさんの詩です。

自分の人生の外側にいること
初めて施設に来た時のことを振り返ると、何もかも失ったような気持ちだったことを思い出す。施設の子どもとしていくらかの権利はあった。施設は私を守ってくれた。私は、聞いてもらわなければならなかった。私は５歳から６歳の子どもの集団に入った。そのときから、いろいろな会議や公の要件で連れて行かれ、そして施設に連れ戻されるあやつり人形のように感じた。
幼い子どもなので、私は自分で考えたり感じたりすることができないと思われていた。あたかも幼い子どもたちは痛みも惨めさも経験しないかのように。時間が経過して、自分のケアプランに関して行われた決定について私はもっと知るようになった。しかしそれでも、私が決定に関与することは許されていなかった。
自分の人生の外側にいるので、どんな風に世話をしてもらいたいか言うこともできない。私は、ただ諦めてそれを受け入れるしかない。私が今どうしたいかを誰も知らない。
インケアの子どもたちの声　アドボカシー利用者ヘレン

〈アドボカシー（advocacy）とは、ラテン語の「ad（誰かに向かって）＋voco（呼ぶ）」を語源とする言葉で、「声をあげる」という意味です。権利侵害を受けている子ども（当事者）に代わって声をあげることと捉えることができます。〉（栄留里美　子どもアドボカシー実践講座 12-14　以下〈〉抜粋）

子どもアドボカシーの目的は、すべての子どもたちが「自分の人生の外側にいる」と感じることのない社会をつくることです。

〈「独立子どもアドボケイト」は、「子どもの味方」になって、正しく説明しようとしないおとな、聴いてくれないおとなに子どもの声を聴くように働きかけます。独立子どもアドボケイトは、マイク（拡声器）のような存在です。知らず知らずの「おとな主義（子ども差別）」（アダルティズム Adultism）によって容易にかき消される声をマイクとして拾い、子どもの意見や希望をきちんと考慮されるように働きかけます。しかも、マイクなので、アドボケイト自身の声を付け足すことはできません。そのまま声を大きくするということです。そのことによって、「自分の人生の外側にいる」という状態にならないようにし、さらなる権利侵害を防止するのです。〉

更に、ヘルプライン、救済制度を考えていくとき、堀正嗣氏は、自らのオンブズパーソンの役割として、相談活動（傾聴、意見形成支援）、代弁活動（意見表明支援）、調整活動（意見実現支援）をあげていることが参考になります。（堀正嗣 子どもの心の声を聴く 35）

これらは全て、子ども不在ではなく、権利主体としての「子どもの参加」が前提となります。
このように「子どもアドボカシー」の考え方は、改めてチャイルドラインの子どもにとっての意味と社会的な役割を考えていく上でのヒントとなるのではないでしょうか。これから、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

<参考・引用・抜粋>
「子どもソーシャルワークとアドボカシー実践」堀正嗣　栄留里美　著　明石書店　2013
「子どもアドボカシー実践講座」編著堀正嗣（社）子ども情報研究センター　解放出版社　2009
「子どもの心の声を聴く」子どもアドボカシー入門　堀正嗣　岩波ブックレット 1032　岩波書店　2020
「アドボカシーってなに?」栄留里美、鳥海直美、堀正嗣、吉池毅志　解放出版社　2021

権利とは「当たり前」のことです。子どもの権利は具体的です。そして、法律となって初めて権利となります。
子どもたちに全ての権利が保障されて、子どもの幸せが実現します。

子どもの権利条約

第 1 条 子どもの定義

18 歳になっていない人を子どもとします。

第 2 条 差別の禁止【一般原則】

すべての子どもは、みんな平等にこの条約にある権利をもっています。子どもは、国のちがいや、男か女か、どのようなことばを使うか、どんな宗教を信じているか、どんな意見をもっているか、心やからだに障がいがあるかないか、お金持ちであるかないか、親がどういう人であるか、などによって差別されません。

第 3 条 子どもにもっともよいことを【一般原則】

子どもに関係のあることを行うときには、子どもにもっともよいことは何かを第一に考えなければなりません。

第 4 条 国の義務

国は、この条約に書かれた権利を守るために、必要な法律を作ったり政策を実行したりしなければなりません。

第 5 条 親の指導を尊重

親 (保護者) は、子どもの発達に応じて、適切な指導をします。国は、親の指導を尊重します。

第 6 条 生きる権利・育つ権利【一般原則】

すべての子どもは、生きる権利・育つ権利をもっています。

第 7 条 名前・国籍をもつ権利

子どもは、生まれたらすぐに登録（出生届など）されなければなりません。 子どもは、名前や国籍をもち、親を知り、親に育ててもらう権利をもっています。

第 8 条 名前・国籍・家族関係を守る

国は、子どもの名前や国籍、家族の関係がむやみにうばわれることのないように守らなくてはなりません。

第 9 条 親と引き離されない権利

子どもには、親と引き離されない権利があります。子どもにもっともよいという理由から引き離されることも認められますが、その場合は、親と会ったり連絡したりすることができます。

第 10 条 別々の国にいる親と会える権利

国は、別々の国にいる親と子どもが会ったりいっしょにくらしたりするために、国を出入りできるよう配慮します。親がちがう国に住んでいても、子どもは親と連絡をとることができます。

第 11 条 よその国に連れさられない権利

国は、子どもが国の外へ連れさられたり、自分の国にもどれなくならないようにします。

第 12 条 意見を表す権利・『聴かれる権利』【一般原則】

子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません。

第 13 条 表現の自由

子どもは、自由な方法でいろいろな情報や考えを伝える権利、知る権利をもっています。

第 14 条 思想・良心・宗教の自由

子どもは、思想・良心・宗教の自由についての権利をもっています。

第 15 条 結社・集会の自由

子どもは、ほかの人びとと一緒に団体をつくったり、集会を行ったりする権利をもっています。

第 16 条 プライバシー・名誉は守られる

子どもは、自分や家族、住んでいるところ、電話や手紙などのプライバシーが守られます。また、他人から誇りを傷つけられない権利をもっています。

第 17 条 適切な情報の入手

子どもは、自分の成長に役立つ多くの情報を手に入れることができます。国は、マスメディア（本・新聞・テレビなど）が、子どものためになる情報を多く提供するようにすすめ、子どもによくない情報から子どもを守らなければなりません。

第 18 条 子どもの養育はまず親に責任

子どもを育てる責任は、まずその父母にあります。国はその手助けをします。

第 19 条 暴力などからの保護

親（保護者）が子どもを育てている間、どんなかたちであれ、子どもが暴力をふるわれたり、不当な扱いなどを受けたりすることがないように、国は子どもを守らなければなりません。

第 20 条 家庭を奪われた子どもの保護

家庭を奪われた子どもや、その家庭環境にとどまることが子どもにとってよくないと判断され、家庭にいることができなくなった子どもは、かわりの保護者や家庭を用意してもらうなど、国から守ってもらうことができます。

第 21 条 養子縁組

子どもを養子にする場合には、その子どもにとって、もっともよいことを考え、その子どもや新しい父母のことをしっかり調べたう

えで、国や公の機関だけが養子縁組を認めることができます。

第 22 条 難民の子ども

自分の国の政府からのはく害をのがれ、難民となった子どもは、のがれた先の国で守られ、援助を受けることができます。

第 23 条 障がいのある子ども

心やからだに障がいがある子どもは、尊厳が守られ、自立し、社会に参加しながら生活できるよう、教育や訓練、保健サービスなどを受ける権利をもっています。

第 24 条 健康・医療への権利

子どもは、健康でいられ、必要な医療や保健サービスを受ける権利をもっています。

第 25 条 施設に入っている子ども

施設に入っている子どもは、その扱いがその子どもにとってよいものであるかどうかを定期的に調べてもらう権利をもっています。

第 26 条 社会保障を受ける権利

子どもは、生活していくのにじゅうぶんなお金がないときには、国からお金の支給などを受ける権利をもっています。

第 27 条 生活水準の確保

子どもは、心やからだのすこやかな成長に必要な生活を送る権利をもっています。親（保護者）はそのための第一の責任者ですが、親の力だけで子どものくらしが守れないときは、国も協力します。

第 28 条 教育を受ける権利

子どもは教育を受ける権利をもっています。国は、すべての子どもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときには、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。学校のきまりは、子どもの尊厳が守られるという考え方からはずれるものであってはなりません。

第 29 条 教育の目的

教育は、子どもが自分のもっている能力を最大限のばし、人権や平和、環境を守ることなどを学ぶためのものです。

第 30 条 少数民族・先住民の子ども

少数民族の子どもや、もとからその土地に住んでいる人びとの子どもは、その民族の文化や宗教、ことばをもつ権利をもっています。

第 31 条 休み、遊ぶ権利

子どもは、休んだり、遊んだり、文化芸術活動に参加する権利をもっています 。

第 32 条 経済的搾取・有害な労働からの保護

子どもは、むりやり働かされたり、そのために教育を受けられなくなったり、心やからだによくない仕事をさせられたりしないように守られる権利をもっています。

第 33 条 麻薬・覚せい剤などからの保護

国は、子どもが麻薬や覚せい剤などを売ったり買ったり、使ったりすることにまきこまれないように守らなければなりません。

第 34 条 性的搾取からの保護

国は、子どもが児童ポルノや児童買春などに利用されたり、性的な虐待を受けたりすることのないように守らなければなりません。

第 35 条 誘拐・売買からの保護

国は、子どもが誘拐されたり、売り買いされたりすることのないように守らなければなりません。

第 36 条 あらゆる搾取からの保護

国は、どんなかたちでも、子どもの幸せをうばって利益を得るようなことから子どもを守らなければなりません。

第 37 条 拷問・死刑の禁止

どんな子どもに対しても、拷問や人間的でないなどの扱いをしてはなりません。また、子どもを死刑にしたり、死ぬまで刑務所に入れたりすることは許されません。もし、罪を犯してたいほされても、尊厳が守られ年れいにあった扱いを受ける権利をもっています。

第 38 条 戦争からの保護

国は、15 歳にならない子どもを軍隊に参加させないようにします。また、戦争にまきこまれた子どもを守るために、できることはすべてしなければなりません。

第 39 条 被害にあった子どもを守る

虐待、人間的でない扱い、戦争などの被害にあった子どもは、心やからだの傷をなおし、社会にもどれるように支援を受けることができます。

第 40 条 子どもに関する司法

罪を犯したとされた子どもは、ほかの人の人権の大切さを学び、社会にもどったとき自分自身の役割をしっかり果たせるようになることを考えて、扱われる権利をもっています。

第 41 条 条約より良い法律

子どもの権利条約よりもっと良い法律や決まりがあれば、それを使う権利を持っています。

第 42 条 条約広報義務

子どもの権利条約を知る権利を持っています。国は、全ての子ども、おとなに対して知らせる義務があります。

日本ユニセフ協会抄訳（日本ユニセフ協会 HP より）
一部【】『』内、第 41,42 条追記　第 43 ～ 54 条略

子どもの権利を保障することを謳っている組織として、私たちは、ロシアのウクライナへの侵略をどこかの遠い国の出来事として切り離して考えることはできません。ここに、改めて、2019 年に発表され現在も取り組みを続けている「広げよう!　子どもの権利条約キャンペーン」を確認し、みなさんと共に、世界中全ての子どもたちの権利を保障していくために努力していきたいと思います。

※チャイルドライン支援センターは、賛同団体として推進しています。

広げよう!　子どもの権利条約キャンペーン

どの国、どんな家庭に生まれてもその子がその子らしく子ども時代を過ごせるように。
子どもにとって何があたりまえであるべきかを世界共通で具体的に決めた「国連子ども(児童)の権利条約」ができてから 30 年。その「子どもの権利条約」を守る、と日本が約束してから、今日で 25 年がたちました。
二度と子どもたちをこんなひどい目にあわせたくない、というおとなの反省からできたこの条約。
しかし、日本でも、世界でも、子どもの権利はどこまで実現しているでしょうか?

虐待、体罰、差別、いじめ。貧困、格差、暴力、紛争。

子どもを巡る状況は、30 年前から前進した部分もあるものの、驚くほど何も変わっておらず、むしろ残されたままの課題が多いことに、悲しい事件がある度に気づかされます。

「先生、どうにかできませんか?」親からの暴力をうけている 10 歳の女の子の悲痛な叫びに、誰も応えられなかった現実。いじめや差別で自死に追いやられる子どもたち。
「子は宝」と口ではいいながら、子どもや子育て中の親に注がれる、社会からの厳しいまなざし。
そんな現状を変えていくための、鍵となるのが、子どもの権利条約だと私たちは思っています。子どもが一人の人として権利があること、その理解を社会の中で進めていくこと。
子どもの権利条約が大切にしている、差別の禁止、子どもの最善の利益（子どもにとって最も良いことをいつも考え行動すること)、子どものいのちの権利、子どもの意見の尊重・子ども参加、を、子どもが関わるあらゆる場面で実現できるよう、法整備、教育現場、家庭の中に、その原則を浸透させていくこと。

そして「みんな違って、みんないい」ことを社会が、自分が人と違ってもありのまま受け止め、受け入れてもらえるという安心感を、子どもたち自身が、持てるように。

そのために、私たちは立ち上がりました。

このキャンペーンはこれまで子どもの権利を大切に考え活動をしてきた多くの団体が関わっています。その団体の活動やイベントに参加して、一緒に学んでみませんか?
子どもの権利を尊重し、子どもの利益を考えて行動する意思決定者（政治家）を選ぶこと、
自分の住むまちを子どもにやさしいまちにしていくこと、そして子どもの権利が守られていない状況に、
「これはおかしい!」と声をあげることも、おとなの出来ることです。

このキャンペーンが、子どもが生きやすい、子どもにやさしい社会を築く新たな一歩になることを願い、今日ここで「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」の開始を宣言します。

2019 年 4 月 22 日　広げよう!子どもの権利条約キャンペーン　実行委員会

「チャイルドライン」は子どもの「声」を聴く活動です

チャイルドラインは 18 歳までの子ども（※）の「声」を聴き、その気持ちに寄り添う活動です。

お説教抜き、押しつけ抜きで、子どもの「声」に、ただただ耳を傾けます。

子どもは、本気で自分の話を聴いてもらえた、受けとめてもらえたと感じることができれば、自分自身でその課題と向き合い、乗り越えていく力を持っています。そう信じ、子どもの「声」の奥にある「こころ」を受けとめるのが、チャイルドラインです。

※2022年4月1日より民法の一部が改正され、成年（成人）年齢が20歳から18歳に引き下げられましたが、本年次報告書は2021年度の内容であるため、従来の表記としています。

大切にしていること

「子どもの権利条約」の理念に基づき、子ども主体の「子どもの最善の利益」の実現を目指しています。

チャイルドラインの子ども観

・子どもはおとなと同様に権利を持っています
・子どもをひとりの人間として、その主体性を尊重します

子どもは単に守られるだけの存在ではなく、社会をともに創っていくパートナーです。

チャイルドラインの主役は子どもです。問題解決のための具体的な助言やアドバイスをするのではなく、子どもが自分の気持ちを整理し、自分が思う解決方法を考える過程に寄り添います。また、主導権は子どもにあり、子どもがやめたくなったらいつでも話をやめることができます。

チャイルドラインの約束

子どもが安心して話せる場となるために、チャイルドラインから子どもたちへの約束です。
〇ヒミツはまもるよ
〇名まえは言わなくていい
〇どんなことも、いっしょに考える
〇切りたいときには切っていい

社会的役割

子どもの「声」を聴いたおとなの責任として、子どもの話を聴いたままにするのではなく、そこから見える社会課題や子どもたちの状況を社会に発信していくことで、子どもが生きやすい環境をつくっていきたいと考えています。そのため、子どもたちの声をデータとしてまとめ、分析し、社会に発信することや、講演会などで“ 子どもの話を聴くこと ”の大切さを社会に啓発する活動を重ねています。また、行政・企業・他団体とも連携して「子どもの最善の利益」が保障される社会をつくるために何が必要かを話し合い、協働していくことにも取り組んでいます。

チャイルドラインの活動は、それに関わるおとなも人として成長する機会になっています。そして、それぞれが地域の「おとな」として子どもや社会と向き合っていくことも、チャイルドラインに関わるすべての人の使命であると考えています。

「チャイルドライン」の歩み

日本にチャイルドラインができるまで

1970年代　北欧での子どものためのホットライン活動開始 1997年　世田谷区の市民団体がチャイルドラインUKを視察。その後、チャイルドラインUKより2名を招き、東京・宮城・石川・三重でセミナーを実施 1998年　日本で初の「せたがやチャイルドライン」実施 1999年　チャイルドライン支援センター設立	1970年代、北欧で子どものためのホットラインが始まり、世界各地に広がって、1986年には虐待が問題となっていたイギリスでチャイルドラインUKが開設された。1997年、世田谷区の市民団体が当時の文部大臣らとチャイルドラインUKを視察、国会で超党派による「チャイルドライン設立推進議員連盟（後にチャイルドライン支援議員連盟に改組）」が発足し、チャイルドライン開設の機運が高まった。

子どもの声を受けとめる活動（フリーダイヤル・オンラインチャット・つぶやく）

2000年　日本初の「子どもの日チャイルドライン」実施 2002年　チャイルドライン月間キャンペーン実施 2003年　地域別統一フリーダイヤルキャンペーン実施 2007年　データベース運用開始 2009年　全国統一番号フリーダイヤル運用開始 2016年　オンラインチャット第1回試行 2018年　フリーダイヤル毎日実施 2019年　4月オンラインチャット開始 2020年　6月「つぶやく」を設置	1999年に「チャイルドライン支援センター」が設立され2000年5月に全国キャンペーンを実施、その後様々な取り組みを経て、2009年全国統一番号フリーダイヤル（月～土）が開始された。2018年からは毎日実施が可能となった。 2007年データベースの運用が開始され全国規模でのデータの集計・分析が進めやすくなった。さらに、2016年にオンラインチャットの試行を行い、2019年4月から本格実施した。 2020年、COVID-19流行により受信率が低下する中、「つぶやく」を設置した。

全国フォーラムなど、社会発信・交流・研修等の活動

チャイルドライン全国フォーラム開催状況 2002年　第1回(東京)　2003年　第2回(大阪) 2004年　第3回(東京)　2005年　第4回(広島) 2007年　第5回(石川)　2009年　第6回(千葉) 2011年　第7回(三重)　2013年　第8回(東京) 2016年　第9回(福島)　2018年　第10回(九州)	チャイルドライン支援センターと、開催地の実行委員会が協力し、2002年より各地で全国フォーラムを実施してきた。2009年に趣旨に賛同いただいた著名人の絵馬を展示、その後6年間全国各地でチャイルドライン夢メッセージ展を開催した。2009年5月には10周年記念「よみがえれ!子ども力」を開催するなど、交流、研修、社会発信の場を設けてきた。

世界のチャイルド・ヘルプライン　CHI　などとの交流

2002年　海外視察　イギリス、オランダ実施 2003年　CHI第1回世界大会に参加 2005年　CHI第1回アジア太平洋地域会議開催 2008年　CHI創設5周年　国際大会参加 2010年　CHI第4回アジア太平洋地域会議開催 2013年10月　全国フォーラム第8回東京大会にチャイルドラインUKのピーター・ライバー氏を招聘 2016年1月　チャイルドラインUK コーマック・ノーラン氏を招き「子ども・若者のためのオンライン相談～イギリスの例に学ぶ」を開催	チャイルド・ヘルプライン・インターナショナル(略称:CHI　本部:オランダ)が世界をつないでおり、現在141ヶ国・168団体で活動が行われている。(CHI HPより)、「チャイルド・ヘルプライン」は、サービス内容がその国のインフラに左右されることもあり、その多様性を尊重している。 日本の「チャイルドライン」は、チャイルドラインUKをモデルとして開始し、傾聴に特化した「子どものこころの居場所」としての存在となっている。支援センターではCHIの会議を開催・参加するほか、関係者を招いた研修や、CHIにデータ提供などを行ってきた。

子どもの声

SNSで知り合った人に自分の写真を送ってしまった。今すごく不安です。

親が虐待をしてきます。きょうだいのなかで自分だけ差別されています。いらない子なら産まなければよかったのに。毎日死にたいです。

やっと部活ができるようになった。まだいろいろ注意されるけど、やっぱり楽しい。

自分の性に違和感がある。親にも言えてない。毎日気分が悪い。

部長をしています。監督に呼び出されて体をさわられました。誰にも言えないし、毎日怖いです。消えたいです。叱られる。どこにも自分の居場所がない。

お姉ちゃんが障害を持っている。お母さんがいつも遅いので、私がご飯を食べさせてあげる。いやがって食べないときは悲しくなる。

友だちが虐待されているらしい。心配だけど何をしてあげたらいいかわからない。

友だちにライン送ったけど未読のままで心配です。どうしたらいいでしょうか。

コロナで休校になった後、始まっても学校にいけなくなった。自分でもなぜかわからない。親から怠けていると叱られる。どこにも自分の居場所がない。

クラス替えがあって、友だちができるかすごく心配だった。みんなマスクをしているので、初めてあった人の表情がよくわからない。このまま友だちができなかったらどうしよう。

戦争のことが不安で、「いずれ日本もウクライナのようになってしまうんじゃないか」と不安で仕方がなくてかけました。

※電話・オンラインチャット・「つぶやく」に寄せられた声をプライバシーに配慮し再構成しています。

子どもから寄せられた意見・感想・質問

意見

・もっと話せる時間を増やしてほしい。助けてほしい。誰も頼る人がいないから。
・チャットが混んでいてなかなかつながらないからスタッフさんを増やしてください。お願いします。
・話を聞いてくれはしたけど解決はしなかった。もっと具体的に話を聞いてほしかったです。
・つぶやくは、だれにも知られないで書き込めるのがすごくいい。こんな場所をつくってくれてありがとう!
・小学校のタブレット端末だと電話ができなくて字を打つのが大変です。

感想

・チャットは私のペースに合わせて丁寧に答えてくれて嬉しかったです。すっきりしました。
・最初は電話するのがとてもこわかったけど、電話で対応してくれた方の優しい声と言葉がすごく心に響きました。
・さいごに「またいつでも電話してね。」と言ってくれたのでまた気軽に相談しようと思えました。すごく心強くなりました。
・聞いてくれる人がいる、その事実だけで安心して過ごせます。ずっと溜め込むことが癖になってた自分を許せました。最近生きづらさを感じなくなりました。本当にありがとう。
・ほめてくれたけど、わざとらしくて嫌でした
・こっちがかけたのに相手のペースでどんどん話がズレていって、結局自分の相談内容とは違っていった。

質問

・チャットのお金は無料ですか?
・チャットはいつもチャイルドラインのスタッフさんがしているのですか?
・電話の内容は、誰にも話さないですか?
・キッズ携帯からも電話できますか?

※チャイルドラインのウェブサイトを通じて寄せられたものです。(公表することを明記し募集しています。)

子どもが気持ちを書き込む場「つぶやく」

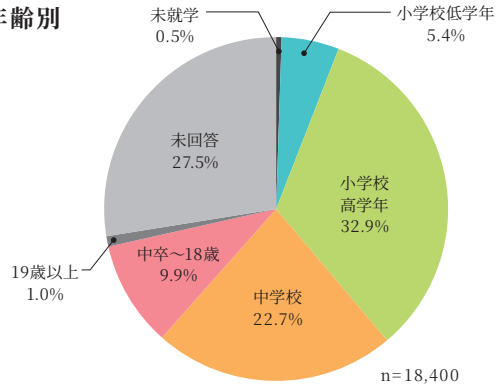
「つぶやく」は、チャイルドラインのホームページトップから入ることができます。

気持ちを吐き出したいと思ったら、24時間いつでも匿名で書き込むことができます。チャイルドラインからの返信はありません。

開始以来、毎月途切れることなく書き込みがあり、2021年度の書き込み件数は18,400件になりました。

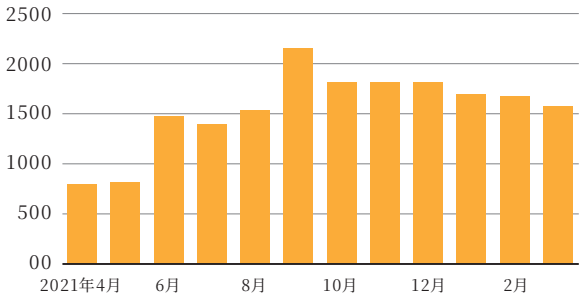
子どもたちの「いま、ここ」の気持ちを吐き出す場、考えることを伝える場になっています。返信がないからこそ、相手の反応をきにすることなく気持ちを出せている子どもも多いのかもしれません。

年齢別



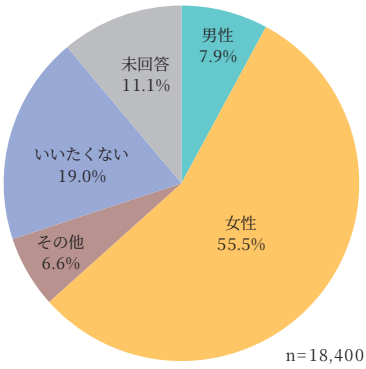
昨年度の中学生に代わり、小学校高学年（4～6年生）が最も多くなっています。次いで未回答が多く、年齢を言いたくない子どもが多くいると思われます。

書き込み件数



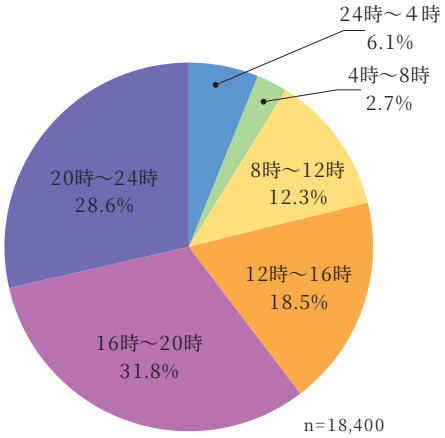
夏休み明けの9月が2,140件と最も多くなっています。また、10月以降、件数の大きな落ち込みもなく、「つぶやく」に来てくれています。

性別



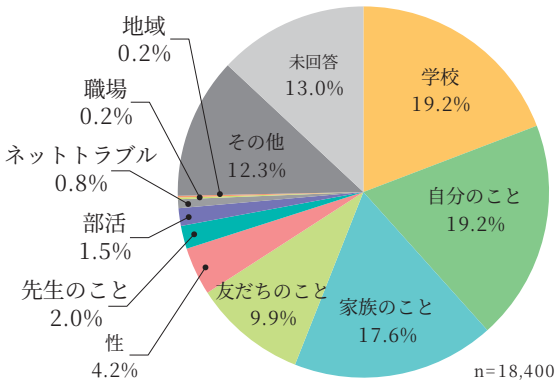
昨年度より0.3%男性が増えていますが、今年も女性が過半数を占めています。文字による感情表現に性差が認められます。

時間帯別



下校後から就寝時に今日のことや気持ちを書き込んでいます。学校にいると思われる時間帯【8 時～ 15 時】にもつぶやきがきています。

ジャンル別

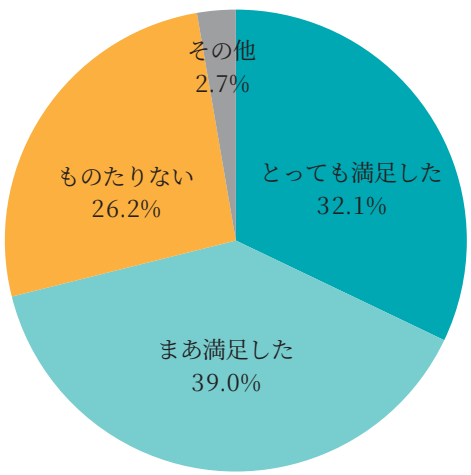


学校、自分のことに次いで家族とのことが多く過半数を占めます。とても身近な存在や自分自身への関心の深さが見てとれます。

「つぶやく」の中の子どもたち

・お母さんに否定された…そうだよそんなことも出来ないダメ人間なんだよ私は…もう辛い
・あーあ、辛いなー。父子家庭で、おばあちゃんたちに育てられてて、おばあちゃんって、考え方も古いから、言葉のナイフが刺さって、死にたくなる
・私のお母さんはやってと言われたことをやらないと蹴ったり叩いたり、「死ね」「殺すよ」など言ってくる
・母と祖母が病気できづかうことが多くてもう嫌だ。育ててくれたことに感謝するけど、家の中の空気が最近重く感じる
・学校がすごく楽しいです!
・学校は嫌いじゃないけど不登校中。今の自分をみんなどう思ってるのかなとか考えると余計行きたくなくなる
・いじめにあってもう六年も経ったけどずっとその子のことを怒っている。悲しくて、辛かった
・死にたいと言うわけじゃないけど、生きていたいとも思えない変な感じ。なんで生きてなきゃダメなんだろう
・自分が自分でいられるのはネットの中でだけ現実では、みんな受け入れてくれない
・「女の子だから」「男の子だから」っていう考え方が古すぎる。自分のやりたいようにさせて

※「公開しても良い」から個人が特定できない形で抜粋、再構成しています。



つぶやいてみて…　アンケートから

・自分のことを言えてスッキリした
・自分の気持ちが落ち着いて楽になりました!
・チャットでなるべく話したいですが混みあっていて話せないのでつぶやきました
・電話をしようと思うけど緊張する
・みんなのつぶやきを見て、「自分は一人じゃないんだなぁ」と安心しました
・返事がもらえるとうれしいです

※「アンケート」より抜粋、再構成しています。

気になるデータから子どもの状況を考える

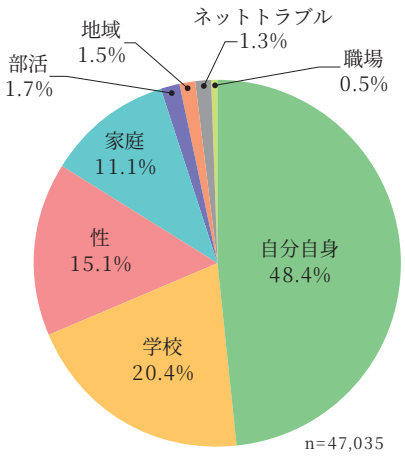
2021 年度の着信数は約 17 万件。ここでは、そのうちの「子どもとの会話が成立した 47,035 件」から、子どもの状況を考えたいと思います。

「モヤモヤ」を聴く

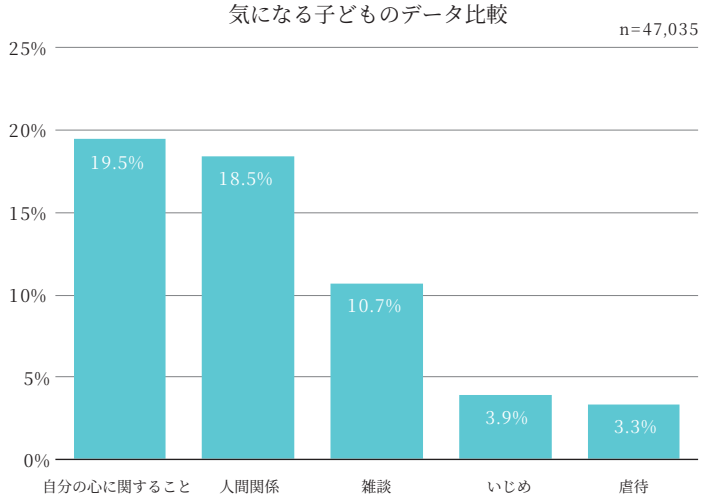
子どもとの会話が成立したもののうち、半数近くが「自分自身」のことを主訴にしています。周りで起こっていることや今感じていることを、相手や他の人ではなく、自分自身の問題・課題として捉えています。「自分自身」を詳しくみると「心に関すること」「雑談」が多く、「心に関すること」をさらに詳しくみると「気分の落ち込み」「自信のなさ」が多くなっています。「雑談」には、寂しさから誰かとつながりたい場合や、本当は話したいことがあったけれど話せず雑談で終わってしまった場合などがあるように思います。

また、「人間関係」も多く、学校や部活、家庭などで友人や家族との関係がどうもうまくいかないというような、いじめや虐待とまではいえないけれど、とてもしんどい状況やモヤモヤした気持ちを子どもたちは語っています。

主訴大項目の割合



気になる子どものデータ比較

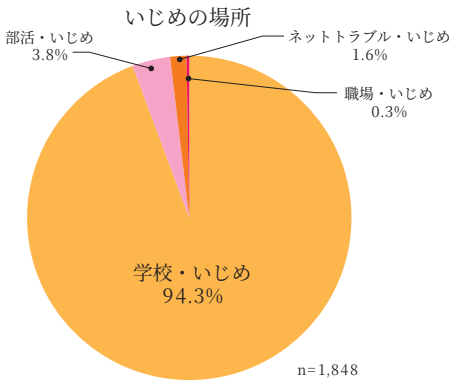


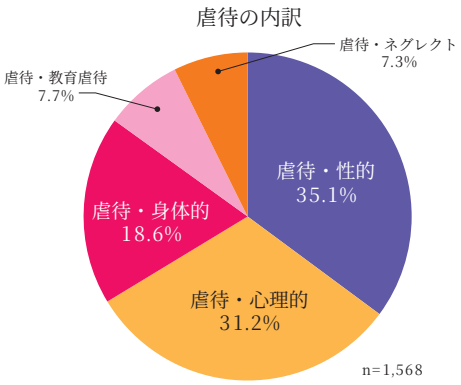
チャイルドラインでは、「いじめ」「虐待」といった悩みの話は少なく、「心に関すること」や「雑談」「人間関係」など、深刻とまではいえない状況やモヤモヤした気持ちが多く寄せられています。けれど、これらの中は、気持ちの整理がついていないため曖昧な表現になったり、話を受けとめてもらえるだろうかという不安から実際の状況をそのまま伝えていなかったり、言いたくないと思っている場合などがあると思われます。そう考えると、「心に関すること」や「雑談」「人間関係」の話を聴くことの重要性が見えてきます。聴いてもらうことで、気持ちの整理ができたり、モヤモヤを小さいうちに吐き出したりすることで、深刻な悩みにまで至らないこともあります。また、とりとめのない雑談やモヤモヤした気持ちを否定されずに聴いてもらうことは、自分のことを大切にされたという経験となります。その経験が人を信頼することにつながり、いじめや虐待を受けた時にも誰かに SOS を出せる力になるとチャイルドラインは考えています。また、聴いてもらうことで自分のせいと落ち込んでいた気持ちも少し切り替えることができ、希死念慮を持つまでに至らずにすむこともあるのではないでしょうか。

「いじめ」「虐待」を聴く

一方、全体からみると少ないとはいえ「いじめ」は 1,848 件、「虐待」は 1,568 件の声が寄せられています。犯罪と思われるものや耳を疑うような内容もあり、重大な権利侵害が行なわれていることがわかります。「虐待」では、「性的」の割合が最も多くなっています。子ども自身が虐待であることを認識していないことも多く、性教育の必要性を強く感じます。

チャイルドラインでは、つらい気持ちを受けとめながら、子ども自身が問題の解決に向けて一歩でも踏み出せるように、子どもの本来持っている力を信頼し、一緒に考えていきます。そして、子どもたちがこのような安心安全ではない環境で育っていることを社会に発信し、子どもの権利が保障される社会にしていかなければならないと考えます。



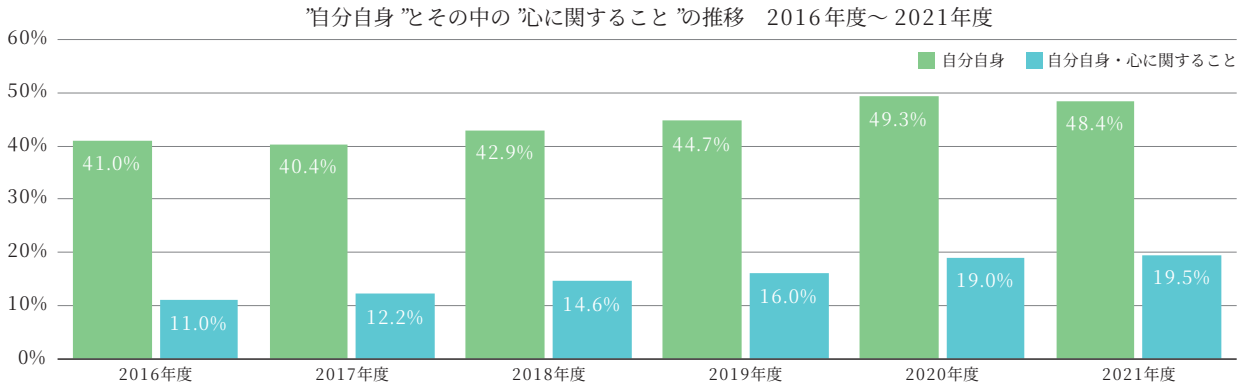


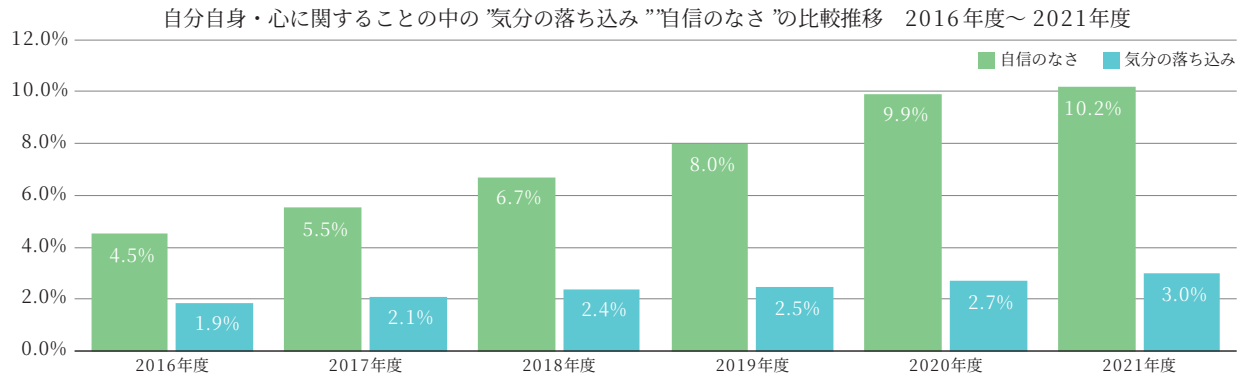
「モヤモヤ」な気持ちの推移から

「自分自身」を主訴とした話の割合は、2020 年度に大きく増え、2021 年度はそれより減ったとはいえ全体として増加傾向にあります。(2020 年度は、コロナ禍のため外出もままならず、「自分自身の内面を見つめる」傾向が強くなった年でした。)「自分自身」の詳細では、10%あまりだった「心に関すること」が 20%近くにまで増え、その中でも「気分の落ち込み」「自信のなさ」が増加してきています。うまくいかないことを相手や他の人ではなく自分のせいと考え、気分が落ち込み、自信をなくしていく子どもが増えてきているように思います。

誰かに安心して話せるように

おとなは何かあったら相談してほしいとよく言います。相談先も最近はあちこちに掲載されています。ですが、誰かに相談するにはとても勇気が必要です。相談してみようと思うには、それまで生きてきた中で誰かに気持ちを聴いてもらった、受けとめてもらった経験があるかどうかが大きいのではないでしょうか。最近では「話を聴く」ことの大切さも言われるようにはなってきましたが、子どもたちがモヤモヤした気持ちを話してみようと思えるような関係性を、私たち周りのおとなは作れているでしょうか。増加傾向にある「自分自身」から、日常の関係作りを見直す必要性を強く感じます。





※集計日　2022年5月18日　※数値はすべて電話・オンラインチャットをあわせた数。
※着信数は、電話:NTTコミュニケーションズのトラヒック調査ツールより、オンラインチャット:AI.BiSのシステム上のツールより取得。
※着信数以外のデータは、チャイルドラインデータベースより集積し分析したもの。データの特性については、P20を参照。

実施概要　2021年4月1日～2022年3月31日　厚生労働省 令和3年度自殺防止対策事業

電話（統一番号フリーダイヤル）

電話番号：0120−99−7777（日本全国共通/携帯電話、公衆電話も通話無料）
実施日時：毎日16時～21時（年末年始は休止）※一部地域では時間延長して実施
実施団体数：68団体
1日平均着信数（着信率）：454件（35.6%）

オンラインチャット

チャイルドライン支援センターウエブサイト上に専用ページ設置　https://childline.or.jp
実施日時：4月～12月　木曜日、金曜日、第3土曜日 16時～21時　1月～3月　木曜日、金曜日、土曜日、第1・第3水曜日 16時～21時
実施団体数：4月～12月 18団体　1月～3月 25団体
1日平均対応件数（対応率）：62件（31.9%）

「2021チャイルドライン全国キャンペーン　～ 今こそ子どもたちにチャイルドラインを ～」

実施期間：2021年11月1日～30日（児童虐待防止推進月間）

電話：毎日16時～21時（一部地域では、時間延長して実施）
実施団体数：68団体
期間中1日平均着信数（着信率）：484件（39.6%）

オンラインチャット：11月1日～14日 毎日 16時～21時　11月15日～30日 木曜日・金曜日・第3土曜日 16時～21時
実施団体数：27団体
期間中1日平均対応件数（対応率）：115件（38.9%）

トラヒックデータから見える子どもの状況

〈集計データの概要・特徴〉

・集計日　2022 年 5 月 5 日
・電話はNTT コミュニケーションズのトラヒック調査ツールより、オンラインチャットは AI.BiS のシステム上のツールより取得し、分析したものです。
・同じ人が複数回かけてきている場合があるので、「着信数・書き込み件数=利用人数」 ではありません。

（注）データ集計は自動計算で、各データの小数点をまとめています。そのため、同じ項目のデータでも集計の仕方によって違いが生じている場合があります。
違いがある場合は、「利用状況」のデータを利用してください。

利用状況

電話

2020 年度に COVID-19 の影響で大きく減少した着信数は、2021 年度に回復してきましたが、コロナ禍前の 2019 年度までには至りませんでした。

単位:特記以外は「件数」

項目	2021年度	1日あたり（開設359日）平均	2020年度比	2020年度	2019年度
発信数	457,714	1,275	-94,638	552,352	436,047
着信数	162,932	454	+11120	151,812	181,196
うち固定	32,480	90	+9,078	23,402	35,599
うち公衆	2,651	7	+137	2,514	4,570
うち携帯	127,801	356	+1,905	125,896	141,027
着信率（会話できた率）	35.6%		+8.1ポイント	27.5%	41.6%
かけた人数（のべ）	201,385	561	+6,583	194,802	220,249
つながった率	80.9%		+3.0ポイント	77.9%	82.3%
平均通話時間	5分36秒		−23秒	5分59秒	5分50秒
10分以上の通話	28,551	80	+434	28,117	32,459
着信数比	17.5%		−1.0ポイント	18.5%	17.9%
総通話時間（時間）	15,217	42	+65	15,152	17,603
総実施時間（時間）	34,204	95	+1,854	32,350	38,966
稼働率	44.5%		-2.3ポイント	46.8%	45.2%
時間着信数／回線	4.8		+0.1	4.7	4.7

電話発信数の内訳

2021年度			
着信		162,932	35.6%
不完了	話し中	54,139	11.8%
	途中切れ	29,268	6.4%
	時間外	26,191	5.7%
	無応答	90,049	19.7%
	その他	95,135	20.8%
発信数計		457,714	100.0%

※「つながった率」：同日中に電話をかけた人数のうち、何人着信できたかを表しています。
※「10分以上の通話」：平均通話時間以上で、一定会話が深められる時間として設定しました。　※「総通話時間」：着信した電話の通話時間の合計。
※「稼働率」：総実施時間のうち、通話していた時間の比率を表しています。　※「時間着信数」：1回線あたりの1時間に着信した件数を表しています。

オンラインチャット

実施団体の増加により対応件数は年々増加していますが、それ以上に書き込み件数が増加しているため、対応率は減少しました。（オンラインチャットは子どもとのやりとりが文字のため、2019 年度に COVID-19 の影響はあまり受けませんでした。）

単位:特記以外は「件数」

項目	2021年度	1日あたり(開設140日)平均	2020年度比	2020年度	2019年度
訪問件数	121,714	869	+36,691	85,023	61,620
書き込み件数	27,273	195	+9,700	17,573	13,325
対応件数	8,712	62	+1,720	6,992	4,630
うちスマホ・タブレット	5,587	40	−187	5,774	4,191
うちPC	3,125	22	+1,908	1,217	438
対応率(会話できた率)	31.9%		−7.9ポイント	39.8%	34.7%
ユニーク訪問人数(のべ)	75,731	670	+2,3617	52,114	37,040
書き込み人数(のべ)	27,249	241	+9578	17,671	13,225
つながった率	36.0%		-2.0ポイント	33.9%	35.7%
平均対応時間(対応件数あたり)	41分1秒		+4分31秒	36分30秒	37分52秒
40分以上のチャット	3,591	32	+1060	2,531	1,941
対応件数比	41.2%		+5.0ポイント	36.2%	41.9%
総対応時間(時間)	5,955	53	+1702	4,254	2,922
総実施時間(時間)	2,592	23	−1734	4,325	2,872
稼働率	115.1%		+16.7ポイント	98.4%	101.8%
時間対応数／1回線	1.7		+0.1	1.6	1.6

※「訪問件数」: チャットシステムに入室した延べ人数で、電話における発信数にあたります。
※「書き込み件数」: 対応した・しない、に関わらず、子どもが何らかの書き込みをした数(チャット特有の数値)。
※「対応件数」: 受け手が何らかの書き込みをした数(ガイダンスは除く)。
※「対応率」: 書き込み件数に対して対応した比率。
※「ユニーク訪問人数」: 実際にチャットシステムに訪問した人数。(IPアドレスの重複を除いていますが、月が替わると1カウントとして計上されます。)
※「40分以上のチャット」: 平均対応時間以上で、ある程度会話が深められると考えた時間。
※「稼働率」:「総実施時間」あたりの「総対応時間」の比率。100%を超えているのは、実際の稼働と集計が違っていたこと、対応できた人の対話時間以外の時間が含まれていることが原因と考えられます。(「総実施時間」は実施予定表から積算されており、記載されている予定より多い実施時間、PCの稼働があったためと考えられます。)

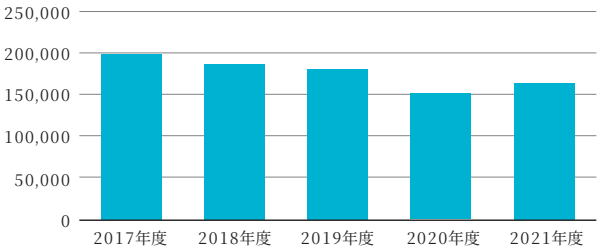
アクセス件数年度別推移

電話

着信数は、年々減少傾向にあります。（2021 年度の増加は、2020 年度に COVID-19 の影響で実施体制が大きく減少したため）

その要因として、

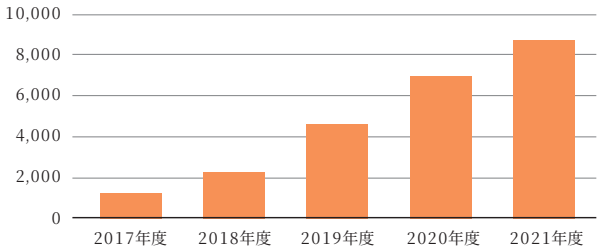
- 家庭の固定電話、公衆電話の減少により、携帯電話を持たない子どもがかけられないこと
- フリーダイヤルにかけられないスマホを持つ子どもの増加
- 「電話で話す」ことがおとなも子どもも日常から減ってきていることなどが考えられます。



年度	電話着信件数
2017年度	198,434 件
2018年度	186,363 件
2019年度	181,196 件
2020年度	151,812 件
2021年度	162,932 件

オンラインチャット

実施団体数、開設日の増加により、対応件数は年々増加しています。けれど、対応率は 2021 年度の 39.8%から、31.9%に減少しました。書き込み件数が大きく増加し、体制が子どもからのニーズに追いついていません。今後も体制の充実が急務となっています。



年度	対応件数
2017年度	1,234 件
2018年度	2,254 件
2019年度	4,630 件
2020年度	6,992 件
2021年度	8,712 件

月別実施状況

電話

発信数が 2020 年度に比べ大きく減少しました。2020 年度は COVID-19 の影響で回線数が一時期大きく減少したため、電話がつながりにくくなり、何度もかけ直すことで、発信数が大幅に増加していました。
11 月は、全国キャンペーンで体制強化を図ったため、総実施時間が大きく増えています。

	発信数(件)	着信数(件)	着信率	平均通話時間	総通話時間	総実施時間
2021年4月	33,130	13,091	39.5%	5分44秒	1,249時間	2,894時間
2021年5月	45,310	14,825	32.7%	5分13秒	1,288時間	2,861時間
2021年6月	37,991	14,057	37.0%	5分25秒	1,268時間	2,860時間
2021年7月	37,319	14,573	39.0%	5分15秒	1,275時間	2,931時間
2021年8月	47,986	14,236	29.7%	5分08秒	1,219時間	2,795時間
2021年9月	42,073	12,241	29.1%	6分16秒	1,279時間	2,801時間
2021年10月	36,368	13,486	37.1%	6分10秒	1,385時間	2,910時間
2021年11月	36,692	14,530	39.6%	5分39秒	1,368時間	3,360時間
2021年12月	32,493	12,676	39.0%	5分41秒	1,200時間	2,873時間
2022年1月	37,436	13,288	35.5%	5分24秒	1,197時間	2,608時間
2022年2月	35,953	11,766	32.7%	6分09秒	1,205時間	2,398時間
2022年3月	34,963	14,163	40.5%	5分26秒	1,283時間	2,916時間
2021年度	457,714	162,932	35.6%	5分36秒	15,217時間	34,204時間
1日平均	1,254	446	35.6%	5分36秒	42時間	94時間
2020年度	552,352	151,812	27.5%	5分59秒	15,152時間	32,350時間
前年度比	-94,638	11,120	+8.1ポイント	−2.3秒	65時間	1,854時間

オンラインチャット

訪問数、書き込み数ともに大きく増加しました。11 月の全国キャンペーンで 2 週間毎日開設したこと、実施団体の増加により 1 月以降は開設曜日が増えたことで対応件数も増えています。

	訪問件数	書き込み件数	対応件数	対応率	平均対応時間	総対応時間	のべ実施時間
2021年4月	6,557	1,510	608	40.3%	36分13秒	367時間	375時間
2021年5月	6,137	1,228	506	41.2%	40分14秒	339時間	332時間
2021年6月	8,216	1,573	593	37.7%	36分13秒	358時間	347時間
2021年7月	8,710	1,765	646	36.6%	35分12秒	379時間	396時間
2021年8月	9,370	1,749	624	35.7%	36分43秒	382時間	365時間
2021年9月	12,935	2,923	548	18.7%	48分47秒	446時間	329時間
2021年10月	11,230	2,302	640	27.8%	41分02秒	438時間	352時間
2021年11月	13,420	3,443	1,341	38.9%	36分06秒	807時間	748時間
2021年12月	11,099	2,276	658	28.9%	38分52秒	426時間	370時間
2022年1月	11,879	3,063	854	27.9%	40分06秒	571時間	505時間
2022年2月	11,593	2,996	833	27.8%	52分08秒	724時間	502時間
2022年3月	10,568	2,445	861	35.2%	50分06秒	719時間	555時間
2021年度	121,714	27,273	8,712	31.9%	41分00秒	5,955時間	5,173時間
1日平均	333	195	62	31.9%	41分01秒	43時間	37時間
2020年度	85,023	17,573	6,992	39.8%	36分30秒	4,254時間	4,325時間
前年度比	36,691	9,700	1,720	−7.9ポイント	+4分31秒	1,702時間	849時間

※1日平均の分母:訪問は毎日できるため「訪問件数」は365、他の項目は実施日数の140。

端末別

電話

年々、固定電話・公衆電話の利用が減り、携帯電話（スマートフォンを含む）の利用率が増えてきていましたが、2021 年度は、携帯電話率が減少し、固定電話率が増加しました。2019 年度の固定電話率が 19.6%であったことから、2020 年度がコロナ禍で家族が在宅しているため固定電話が使いづらく、率が低くなったものと考えられます。

端末種別	発信数(件)	着信数(件)	着信比率	平均通話時間	2020年度着信比率	前年度比
固定電話	86,825	32,480	19.9%	04分19秒	15.4%	+4.5ポイント
公衆電話	7,620	2,651	1.6%	08分00秒	1.7%	−0.1ポイント
携帯電話	363,269	127,801	78.4%	05分52秒	82.9%	−4.5ポイント
合計	457,714	162,932	100.0%	05分35秒	100.0%	

オンラインチャット

2019 年度 80%を超えていた携帯端末が、この 2 年で大きく減少しました。GIGA スクール構想や COVID-19 の影響によるオンライン授業で、PC の普及が進んだのかもしれません。

端末種別	書き込み数(件)	対応数(件)	対応比率	平均対話時間	2020年度対応比率	前年度比
スマホ・タブレット	18,502	5,587	64.1%	36分21秒	82.6%	−18.5ポイント
PC	8,769	3,125	35.9%	49分13秒	17.4%	+18.5ポイント
合計	27,271	8,712	100.0%	41分00秒	100.0%	

※「平均通話時間」については、各データの小数点をまとめる際に集計上の誤差が生じるため、他のページのデータと違いが生じている場合があります。
利用する際は「利用状況」のデータをご使用ください。

都道府県ごとの発信／着信結果

電話

都道府県名	発信数(件)	着信数(件)	平均通話	総通話時間
北海道	12,264	4,181	07分49秒	544時間
青森県	1,064	454	05分05秒	38時間
秋田県	2,028	697	08分15秒	96時間
岩手県	5,576	2,538	02分39秒	112時間
宮城県	9,042	3,243	06分46秒	366時間
山形県	11,035	3,789	06分24秒	404時間
福島県	4,268	1,494	10分56秒	272時間
新潟県	8,376	3,064	07分33秒	385時間
長野県	5,708	1,611	08分52秒	238時間
群馬県	5,295	2,123	03分54秒	138時間
栃木県	3,324	886	07分08秒	105時間
茨城県	5,569	1,816	10分46秒	326時間
東京都	66,282	23,894	04分09秒	1,654時間
神奈川県	25,231	9,905	06分10秒	1,018時間
千葉県	16,755	5,217	07分17秒	633時間
埼玉県	28,996	9,067	08分19秒	1,256時間
山梨県	1,308	400	10分58秒	73時間
愛知県	62,791	21,127	03分33秒	1,250時間
静岡県	12,419	5,392	04分09秒	373時間
岐阜県	9,325	4,662	03分13秒	250時間
三重県	5,598	2,010	07分12秒	241時間
富山県	2,704	820	06分37秒	90時間
石川県	2,197	977	03分50秒	62時間
福井県	1,784	766	07分16秒	93時間

都道府県名	発信数(件)	着信数(件)	平均通話	総通話時間
大阪府	55,992	19,932	04分41秒	1,553時間
京都府	9,106	2,888	14分11秒	683時間
滋賀県	8,643	2,372	05分44秒	227時間
奈良県	1,013	299	16分17秒	81時間
和歌山県	12,958	4,761	05分26秒	431時間
兵庫県	15,070	5,217	04分12秒	365時間
岡山県	5,224	1,989	03分38秒	120時間
広島県	5,264	1,918	07分14秒	231時間
島根県	1,051	405	05分24秒	36時間
鳥取県	2,410	960	04分57秒	79時間
山口県	2,610	1,249	04分03秒	84時間
香川県	409	135	12分15秒	28時間
徳島県	638	213	07分19秒	26時間
高知県	1,134	394	04分28秒	29時間
愛媛県	714	216	11分03秒	40時間
福岡県	12,806	5,203	05分52秒	509時間
佐賀県	2,107	738	04分38秒	57時間
長崎県	2,640	976	10分49秒	176時間
熊本県	1,785	537	14分38秒	131時間
大分県	2,120	649	09分56秒	107時間
宮崎県	1,233	430	06分03秒	43時間
鹿児島県	1,236	458	06分41秒	51時間
沖縄県	2,612	860	07分55秒	113時間
合計	457,714	162,932	05分36秒	15,220時間

※「発信数」:各都道府県在住の子どもが発信した数です。「着信数」は「発信数」のうち、チャイルドライン(全国)に着信した数です。

オンラインチャット

システム上データを取得できません。

曜日別

電話

金曜日の着信率が高くなっています。火曜日・木曜日・日曜日は実施団体数が少ないため、他の曜日と比べてかなり低くなっており、体制の充実が課題となっています。着信率が低くなる（電話がつながりにくくなる）と何度もかけ直すため、火曜日・木曜日・日曜日の発信数が多くなっています。

曜日	発信数(件)	着信数(件)	着信率	平均通話時間	総通話時間
月曜日	56,218	27,857	49.6%	04分15秒	1,971時間
火曜日	75,378	19,704	26.1%	05分19秒	1,749時間
水曜日	57,869	27,670	47.8%	04分45秒	2,189時間
木曜日	77,816	19,480	25.0%	04分55秒	1,596時間
金曜日	48,729	28,822	59.1%	04分27秒	2,140時間
土曜日	54,933	26,047	47.4%	04分14秒	1,840時間
日曜日	86,771	13,352	15.4%	05分13秒	1,161時間

オンラインチャット

木曜・金曜・第 3 土曜に加えて、1 月より毎週土曜日、第 1 第 3 水曜日が定期開設曜日になりました。また、11 月の全国キャンペーンで 2 週間（11/1 ～ 11/14）毎日開設しました。

曜日	書き込み数(件)	対応数(件)	対応率	平均対応時間	総対応時間
月曜日	317	152	47.9%	29分32秒	75時間
火曜日	459	153	33.3%	33分29秒	85時間
水曜日	1,733	439	25.3%	51分010秒	374時間
木曜日	11,394	3,746	32.9%	40分35秒	2,533時間
金曜日	9,505	2,743	28.9%	41分05秒	1,878時間
土曜日	3,544	1,322	37.3%	41分39秒	918時間
日曜日	321	157	48.9%	35分03秒	92時間

※定期開設曜日:(4月～12月)木曜・金曜・第3土曜　(1月～3月)木曜・金曜・土曜・第1第3水曜。
※対応率:書き込まれた件数に対して「対応」した割合。　※平均対応時間:1件あたりに対応した平均時間。

データベースから見える子どもの状況

〈集計データの概要・特徴〉

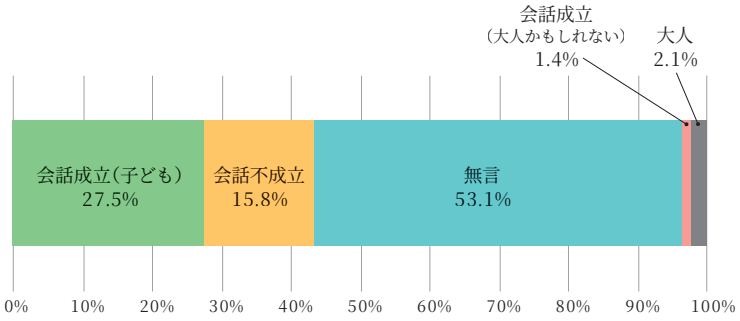
・集計日　2022 年 5 月 10 日
・子どもの話を聴く「受け手（子どもからの電話・チャットを直接受ける人）」が感じた子どもの状況を、
　子どもが特定できないようデータベースに集積し分析したものです。
・匿名性と尊重するため、同じ人が複数回かけてきている場合があり、同じ内容の件数が増えていることもあります。
（「件数＝人数」ではありません。）
・集計にあたっての分母は、「着信の内訳」を除き、「会話成立（子ども）」数です。
（ただし、合計値には「未入力」も含まれるため、一致しない場合があります。）
・単位表記のない数値は全て「件」。

着信の内訳

電話の着信の半数以上が無言となっています。
無言にはつながった途端に切れるものと長く無言のまま切れるものがあります。
お試しでかけてみた場合や、つながったものの話し出せなかった場合などが考えられます。
また、長い無言の後話し出すこともあり、無言も「大切な子どもの気持ち」と考えています。
オンラインチャットでは、子どもとの会話成立が 80%を超えています。

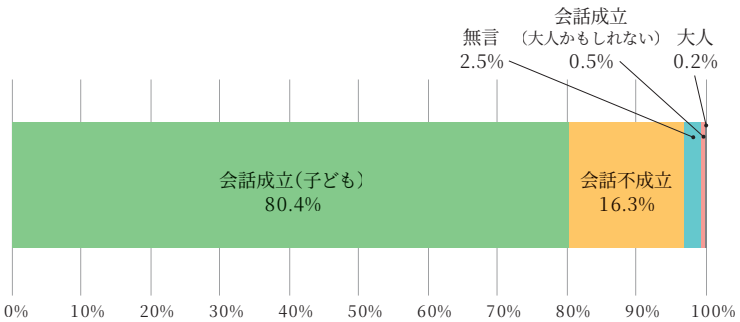
電話

	着信数	比率
会話成立(子ども)	41,823	27.5%
会話不成立	24,051	15.8%
無言	80,685	53.1%
会話成立(大人かもしれない)	2,145	1.4%
大人	3,195	2.1%
合計	151,899	100.0%



オンラインチャット

	着信数	比率
会話成立(子ども)	5,212	80.4%
会話不成立	1,057	16.3%
無言	164	2.5%
会話成立(大人かもしれない)	31	0.5%
大人	15	0.2%
合計	6,479	100.0%



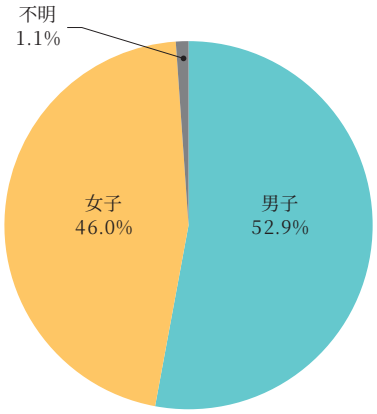
※「会話不成立」はコミュニケーションが成立しないもの、性的な目的でかけてきたものなどを分類しています。
※「会話成立(大人かもしれない)」は、内容・言葉使いなどから受け手が「大人かもしれない」と感じたものです。
※未入力のデータがあるため、トラヒックデータとは一致しません。

「会話成立（子ども）」について分析　（電話：41,823 件・オンラインチャット：5,212 件）

性別

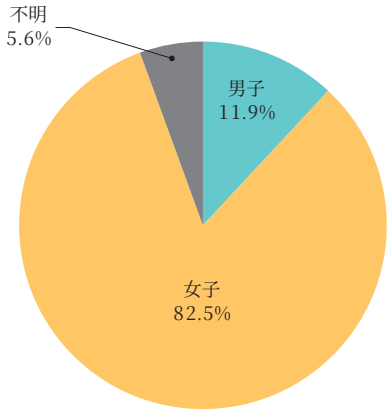
電話は男子の割合が半数を超え、オンラインチャットは女子の割合が圧倒的に多くなっています。

電話



男子	女子	不明	合計
22,128	19,232	463	41,823
52.9%	46.0%	1.1%	100.0%

オンラインチャット

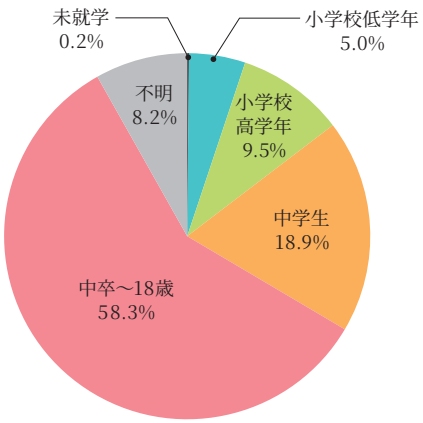


男子	女子	不明	合計
622	4,300	290	5,212
11.9%	82.5%	5.6%	100.0%

年齢別

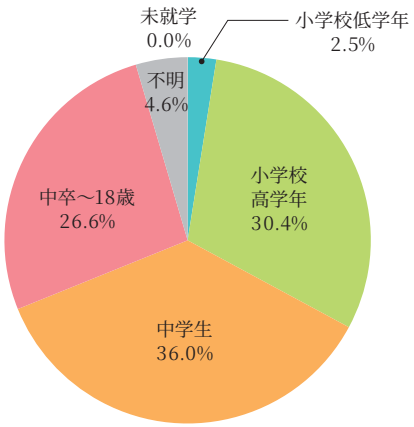
電話は中卒～ 18 歳の割合が半数を超え、年齢が小さくなるにつれて減っています。
オンラインチャットでは、中学生の割合が最も多く、次いで小学校高学年となっています。

電話



未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	中卒～18歳	不明	合計
63	2,083	3,975	7,887	24,401	3,414	41,823
0.2%	5.0%	9.5%	18.9%	58.3%	8.2%	0.0%

オンラインチャット



未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	中卒～18歳	不明	合計
1	130	1,582	1,877	1,384	238	5,212
0.0%	2.5%	30.4%	36.0%	26.6%	4.6%	100.0%

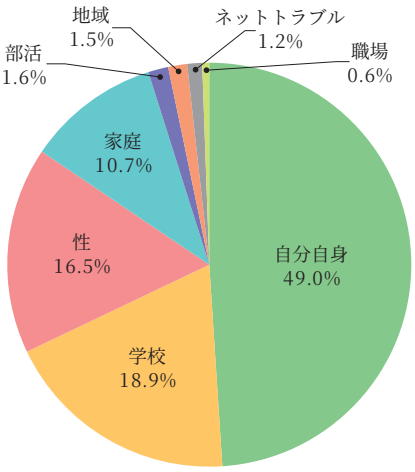
主訴

電話

2020 年度は COVID-19 の影響で、「自分自身」の割合が増え「学校」の割合が減りましたが、2021 年度も引き続き影響を受けていることがわかります。
「自分自身」の割合が半数近くを占め、「学校」「性」の順になっています。
また、「自分自身」の内訳では、「心に関すること」「雑談」が多くなっています。雑談については、たわいない話をしたい場合や試しにかけてみた場合、本当に話したい内容があったが話せなかった場合などが考えられます。
「心に関すること」の内訳では、「気分の落ち込み」が多く、「自信のなさ」「希死念慮」と続きます。
「学校」「家庭」「部活」では、「人間関係」が大きな割合を占めています。

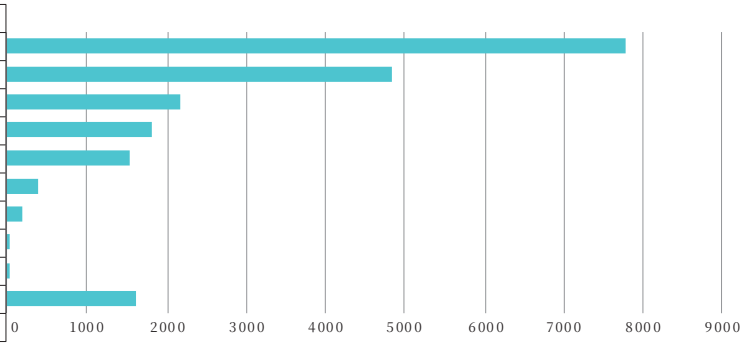
大項目	2021年度		2020年度		2019年度	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自分自身	20,479	49.0%	20,711	49.4%	22,390	44.7%
学校	7,925	18.9%	7,697	18.4%	11,100	22.2%
性	6,918	16.5%	6,906	16.5%	8,345	16.7%
家庭	4,462	10.7%	4,673	11.1%	5,580	11.1%
部活	672	1.6%	622	1.5%	1,129	2.3%
地域	636	1.5%	598	1.4%	780	1.6%
ネットトラブル	496	1.2%	447	1.1%	473	0.9%
職場	235	0.6%	287	0.7%	285	0.6%
合計	41,823	100.0%	41,941	100.0%	50,082	100.0%

※「学校」には学校外の居場所・フリースクール等を含めています。



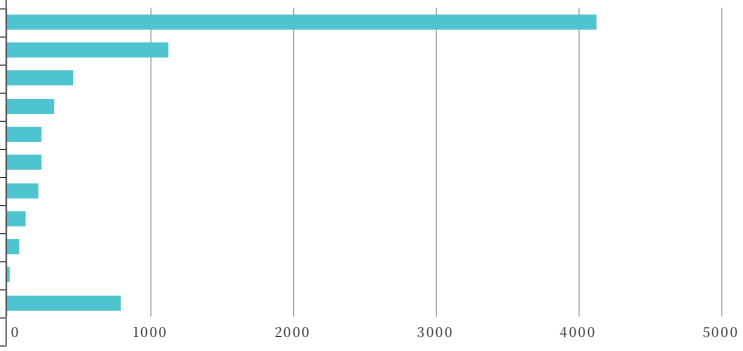
自分自身

項目	件数	割合
心に関すること	7,768	37.9%
雑談	4,834	23.6%
身体に関すること	2,193	10.7%
恋愛	1,830	8.9%
進路・生き方に関すること	1,544	7.5%
性格のこと	402	2.0%
容姿・体型のこと	192	0.9%
ひきこもり	58	0.3%
デートDV	16	0.1%
その他	1,642	8.0%
合計	20,479	100.0%



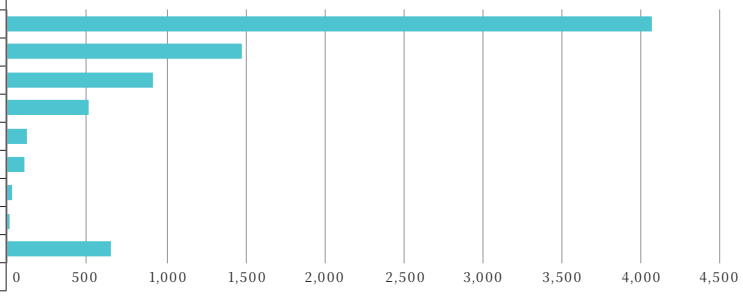
自分自身／心に関することの内訳

項目	件数	割合
気分の落ち込み	4,125	20.1%
自信の無さ	1,125	5.5%
希死念慮	461	2.3%
嗜癖	332	1.6%
恐怖	232	1.1%
強迫観念	230	1.1%
自傷行為	215	1.0%
退屈	130	0.6%
過度な家族密着	89	0.4%
薬物乱用・依存	24	0.1%
その他	803	3.9%
合計	7,768	37.9%



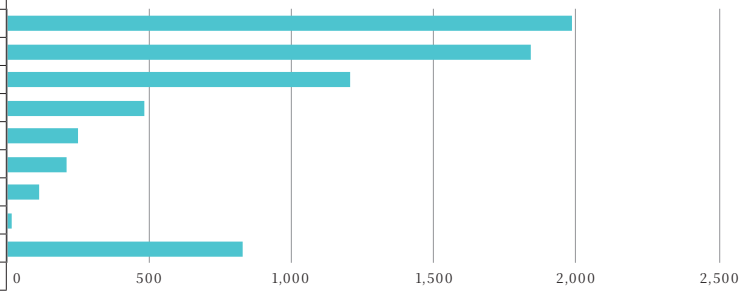
学校

項目	件数	割合
人間関係	4,071	51.4%
いじめ	1,488	18.8%
勉強・成績に関すること	927	11.7%
不登校	517	6.5%
セクハラ	123	1.6%
パワハラ	112	1.4%
体罰	26	0.3%
中退	11	0.1%
その他	650	8.2%
合計	7,925	100.0%



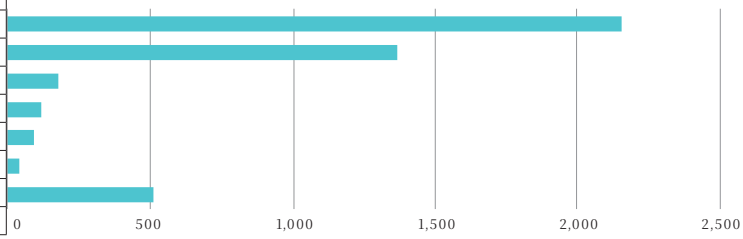
性

項目	件数	割合
))性行動	1,983	28.7%
))自慰	1,840	26.6%
))性器に関すること	1,204	17.4%
))性の多様性	480	6.9%
))性被害	245	3.5%
))性依存	212	3.1%
))妊娠	112	1.6%
))性感染症	13	0.2%
))その他	829	12.0%
合計	6,918	100.0%



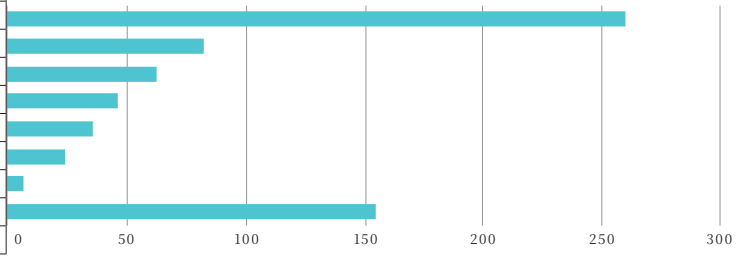
家庭

項目	件数	割合
))人間関係	2,152	48.2%
))虐待	1,367	30.6%
))両親の不仲について	179	4.0%
))暴力	116	2.6%
))貧困	94	2.1%
))死別	39	0.9%
))その他	515	11.5%
合計	4,462	100.0%



部活

項目	件数	割合
))人間関係	260	38.7%
))セクハラ	82	12.2%
))いじめ	63	9.4%
))技術に関すること	46	6.8%
))指導方法	36	5.4%
))パワハラ	24	3.6%
))体罰	6	0.9%
))その他	155	23.1%
合計	672	100.0%



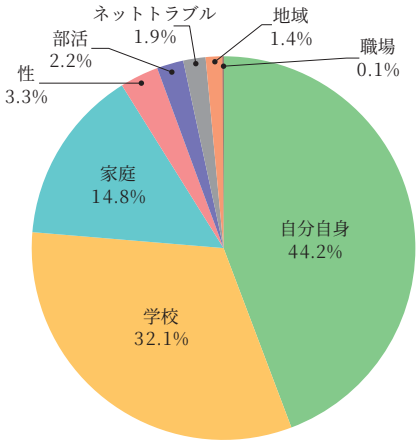
主訴

オンラインチャット

2020 年度は COVID-19 の影響で、「自分自身」の割合が増え「学校」の割合が減った年度でしたが、2021 年度はコロナ禍前の状況に戻っているようにみえます。電話とのちがいは、年齢構成が異なるからかもしれません。
「自分自身」の割合が一番多く、「学校」「家庭」の順になっています。電話と比べて「性」の割合が少ないのが特徴です。
「自分自身」の内訳では「心に関すること」が 60%を超えています。
「性」の内訳では「性の多様性」の割合が高いのも、電話との大きな違いとなっています。
「学校」「家庭」「部活」では、「人間関係」が 60%前後と大きな割合を占めています。

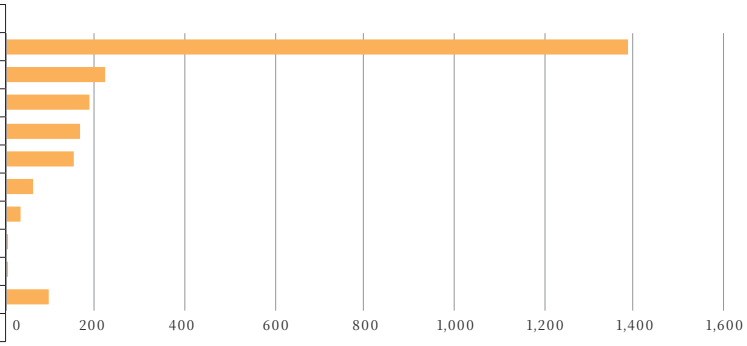
大項目	2021年度		2020年度		2019年度	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自分自身	2,306	44.2%	2,163	48.3%	1,331	45.0%
学校	1,672	32.1%	1,206	26.9%	940	31.8%
家庭	771	14.8%	709	15.8%	390	13.2%
性	170	3.3%	166	3.7%	132	4.5%
部活	117	2.2%	116	2.6%	94	3.2%
ネットトラブル	98	1.9%	73	1.6%	39	1.3%
地域	74	1.4%	44	1.0%	24	0.8%
職場	4	0.1%	5	0.1%	8	0.3%
合計	5,212	100.0%	4,482	100.0%	2,958	100.0%

※「学校」には学校外の居場所・フリースクール等を含めています。



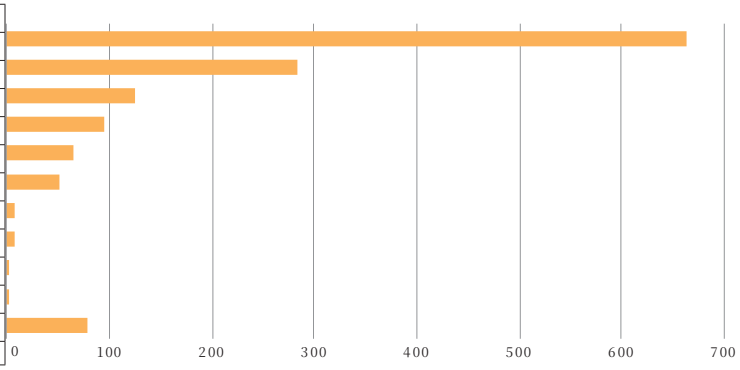
自分自身

項目	件数	割合
心に関すること	1,386	60.1%
進路・生き方に関すること	220	9.5%
雑談	190	8.2%
恋愛	166	7.2%
身体に関すること	149	6.5%
性格のこと	61	2.6%
容姿・体型のこと	35	1.5%
ひきこもり	3	0.1%
デートDV	1	0.0%
その他	95	4.1%
合計	2,306	100.0%



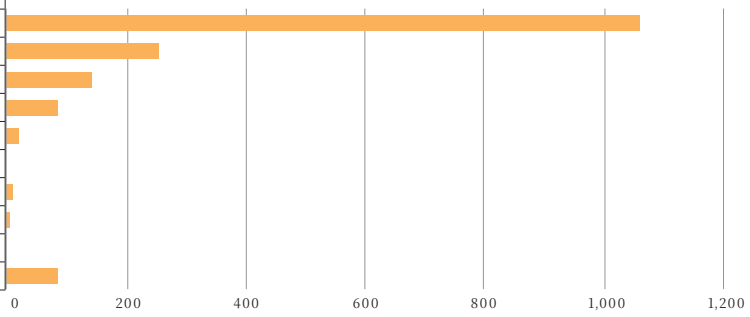
自分自身／心に関することの内訳

項目	件数	割合
気分の落ち込み	663	47.8%
自信の無さ	285	20.6%
希死念慮	125	9.0%
自傷行為	96	6.9%
恐怖	66	4.8%
強迫観念	51	3.7%
嗜癖	9	0.6%
退屈	8	0.6%
薬物乱用・依存	4	0.3%
過度な家族密着	1	0.1%
その他	78	5.6%
合計	1,386	100.0%



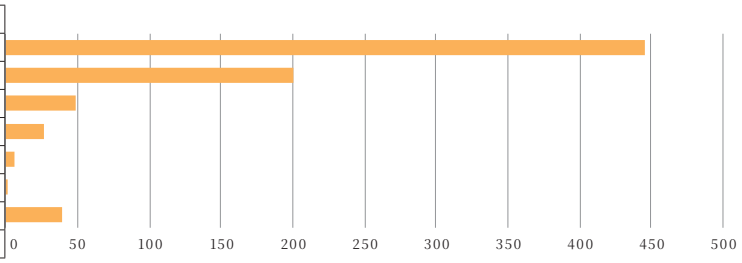
学校

項目	件数	割合
人間関係	1,057	63.2%
いじめ	255	15.3%
勉強・成績に関すること	143	8.6%
不登校	88	5.3%
パワハラ	24	1.4%
セクハラ	11	0.7%
体罰	5	0.3%
中退	0	0.0%
その他	89	5.3%
合計	1,672	100.0%



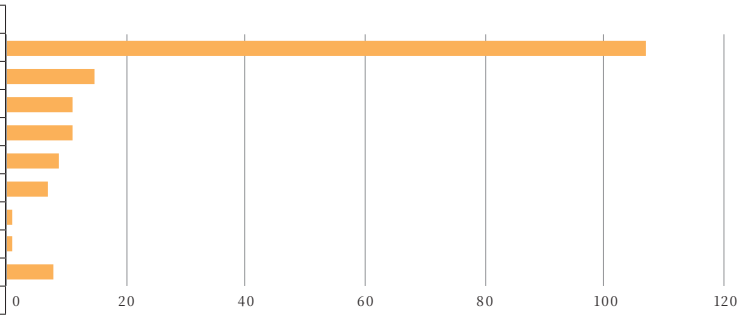
家庭

項目	件数	割合
人間関係	446	57.8%
虐待	201	26.1%
両親の不仲について	49	6.4%
暴力	27	3.5%
貧困	6	0.8%
死別	2	0.3%
その他	40	5.2%
合計	771	100.0%



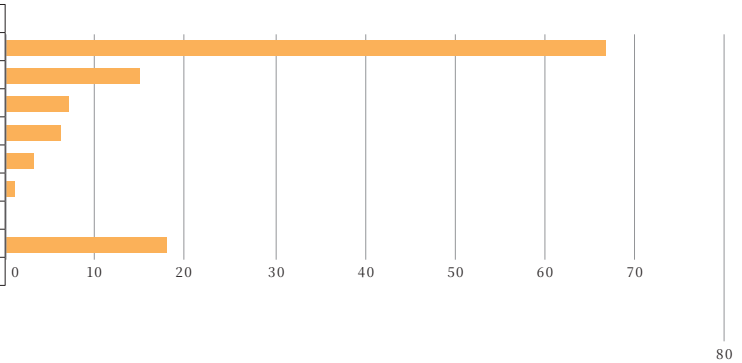
性

項目	件数	割合
性の多様性	107	62.9%
性器に関すること	15	8.8%
性行動	11	6.5%
妊娠	11	6.5%
性被害	9	5.3%
自慰	7	4.1%
性依存	1	0.6%
性感染症	1	0.6%
その他	8	4.7%
合計	170	100.0%



部活

項目	件数	割合
人間関係	67	57.3%
指導方法	15	12.8%
いじめ	7	6.0%
パワハラ	6	5.1%
技術に関すること	3	2.6%
体罰	1	0.9%
セクハラ	0	0.0%
その他	18	15.4%
合計	117	100.0%



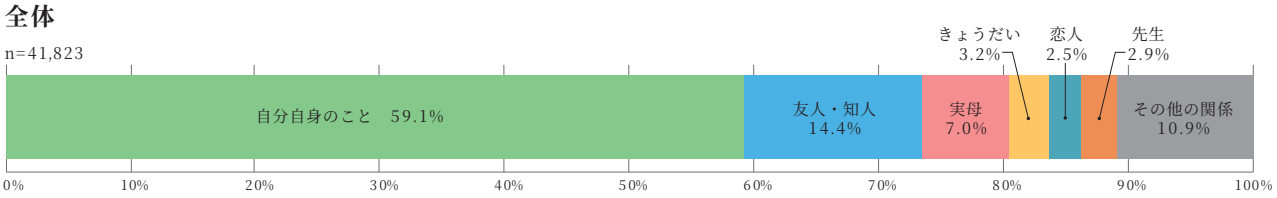
関係性

子どもの話した内容が誰のことなのか、また誰との関係で起こっていることなのかをまとめました。

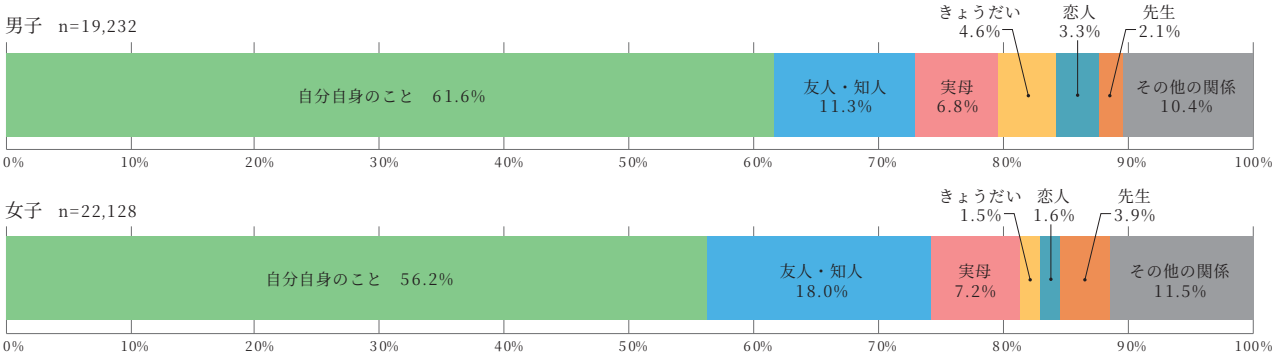
電話

全体に「自分自身のこと」の割合が多くなっています。男子は女子と比べて「自分自身のこと」が多く、「友人・知人」が少なくなっています。年齢別では、年齢が上がるにつれて「自分自身のこと」が増え、「友人･知人」が減っています。

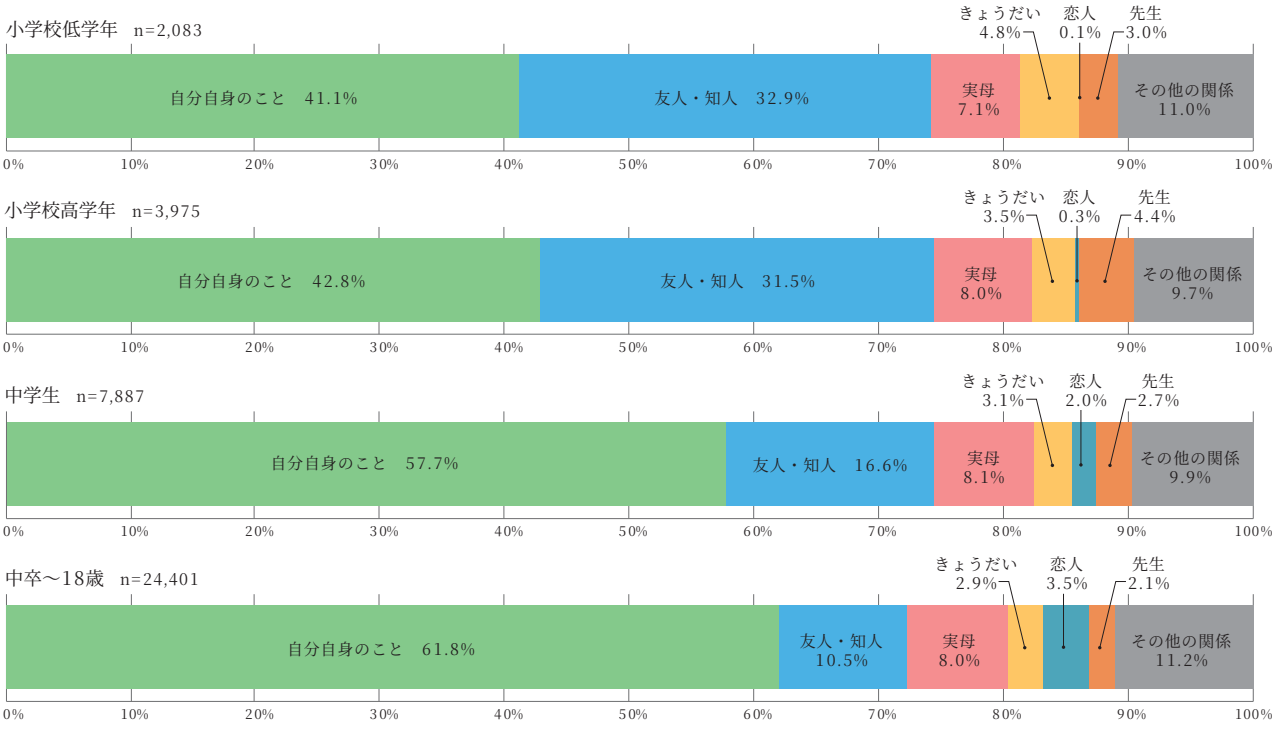
全体



性別



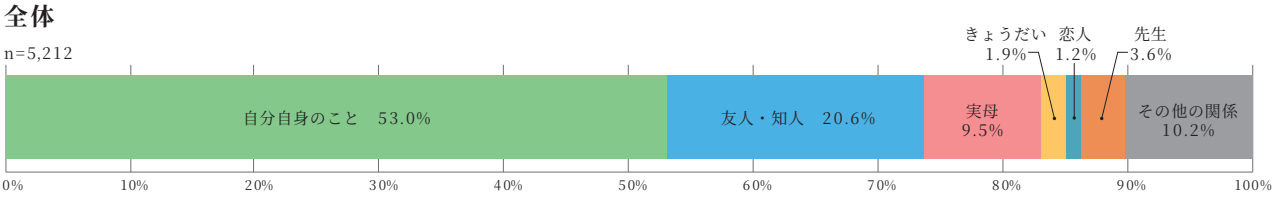
学齢別（年齢）



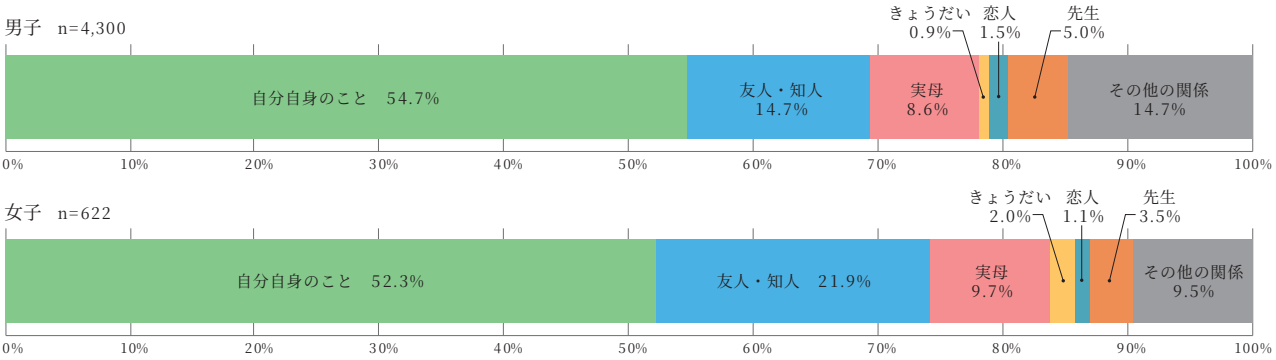
オンラインチャット

全体的に、電話と同様の傾向が見られますが、「実母」の割合は電話に比べて若干多くなっています。

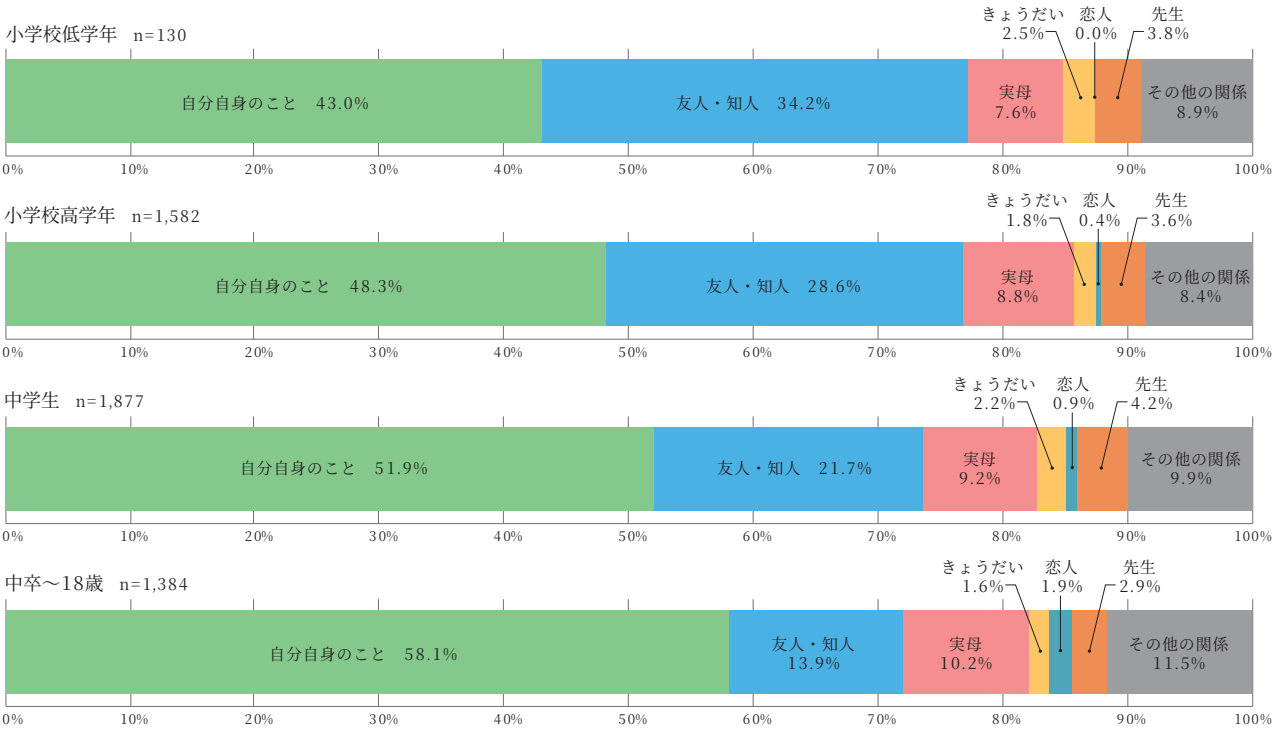
全体



性別



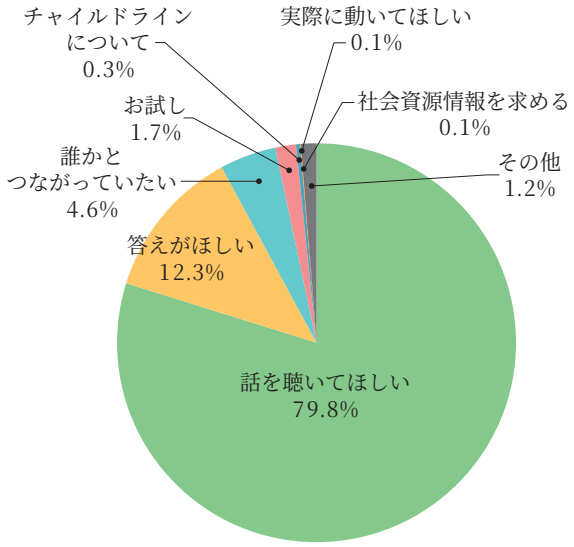
学齢別（年齢）



動機

電話

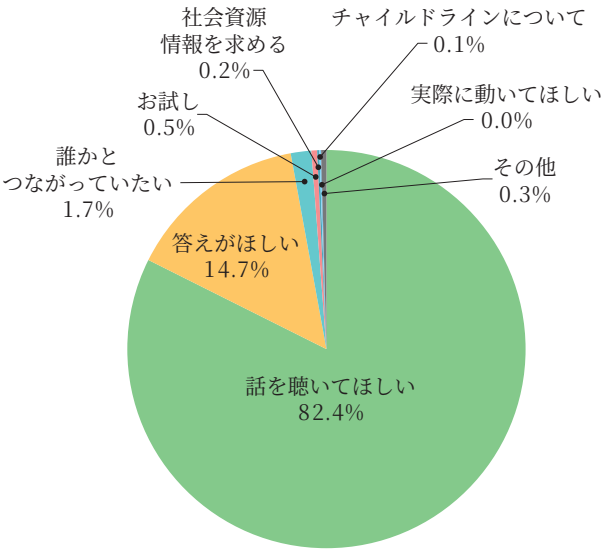
受け手が感じた子どもが電話をかけた動機は「話を聴いてほしい」が 80%近くを占めています。「話を聴いてほしい」「誰かとつながっていたい」を合わせた 80%以上の子どもが「話し相手」を求めていると考えられます。



	件数	比率
話を聴いてほしい	33,383	79.8%
答えがほしい	5,142	12.3%
誰かとつながっていたい	1,909	4.6%
お試し	698	1.7%
チャイルドラインについて	146	0.3%
社会資源情報を求める	38	0.1%
実際に動いてほしい	22	0.1%
その他	485	1.2%
合計	41,823	100.0%

オンラインチャット

「話を聴いてほしい」が 80% を超えており、電話よりも割合が高くなっています。「誰かとつながっていたい」の割合は、電話より少なくなっています。



	件数	比率
話を聴いてほしい	4,294	82.4%
答えがほしい	768	14.7%
誰かとつながっていたい	87	1.7%
お試し	24	0.5%
社会資源情報を求める	9	0.2%
チャイルドラインについて	7	0.1%
実際に動いてほしい	1	0.0%
その他	22	0.4%
合計	5,212	100.0%

気持ち

電話

全体では「不安」の割合が最も多くなっていますが、男子では「困惑・困っている」、女子では「つらい・苦しい」が最も多くなっています。また、年齢別では、年齢が上がるにつれて「不安」の割合が増加傾向です。小学生低学年では、「イヤだ」が 20%を超えています。

性別/気持ち	男 n=22,128	女 n=19,232	不明 n=463	全体 n=41,823
不安	15.9%	15.0%	13.2%	15.4%
困惑・困っている	17.2%	9.8%	10.2%	13.7%
つらい・苦しい	6.8%	15.6%	10.2%	10.9%
葛藤・迷い・戸惑い	11.3%	6.7%	7.1%	9.2%
イヤだ	7.9%	10.0%	9.9%	8.9%
うれしい・たのしい	5.2%	3.9%	5.4%	4.6%
怒り・いらだち	3.1%	4.3%	3.0%	3.7%
孤独・寂しさ	2.4%	4.8%	3.2%	3.5%
憂鬱	2.5%	3.6%	1.7%	3.0%
自分に自信がない	2.0%	2.8%	2.6%	2.4%
悲しい	0.9%	3.4%	1.5%	2.1%
恐怖・怖い	1.3%	2.5%	1.9%	1.9%
楽しみ・期待	1.7%	1.5%	0.9%	1.6%
疲れ	0.8%	2.2%	1.1%	1.4%
人目が気になる	1.4%	0.8%	0.4%	1.1%
くやしい	0.8%	1.1%	1.1%	1.0%
あきらめ	0.6%	1.1%	1.1%	0.8%
満足・充実感	1.0%	0.5%	0.4%	0.7%
傷つきたくない	0.5%	0.8%	0.6%	0.6%
幸せ	0.8%	0.3%	0.0%	0.5%
傷つけたくない	0.3%	0.3%	0.2%	0.3%
不明	9.9%	4.9%	16.4%	7.7%
その他	5.7%	4.1%	7.8%	5.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

年齢/気持ち	未就学 n=63	小学校低学年 n=2,083	小学校高学年 n=3,975	中学生 n=7,887	中卒～18歳 n=24,401	不明 n=3,414	全体 n=41,823
不安	19.0%	8.2%	12.5%	17.0%	16.5%	12.4%	15.4%
困惑・困っている	14.3%	14.5%	14.6%	13.3%	14.1%	10.0%	13.7%
つらい・苦しい	1.6%	4.9%	10.2%	13.4%	11.2%	7.9%	10.9%
葛藤・迷い・戸惑い	3.2%	2.7%	5.3%	8.3%	11.0%	6.3%	9.2%
イヤだ	11.1%	22.9%	16.6%	9.6%	6.6%	6.0%	8.9%
うれしい・たのしい	4.8%	10.6%	5.4%	4.4%	4.0%	5.0%	4.6%
怒り・いらだち	6.3%	2.1%	2.7%	3.1%	4.0%	4.2%	3.7%
孤独・寂しさ	9.5%	7.4%	4.5%	3.4%	3.0%	3.7%	3.5%
憂鬱	0.0%	1.5%	2.6%	2.9%	3.3%	2.5%	3.0%
自分に自信がない	0.0%	0.7%	1.5%	2.2%	2.8%	1.7%	2.4%
悲しい	0.0%	5.6%	4.1%	2.3%	1.4%	1.5%	2.1%
恐怖・怖い	6.3%	2.9%	2.8%	2.5%	1.5%	1.4%	1.9%
楽しみ・期待	4.8%	2.4%	2.0%	1.4%	1.6%	1.1%	1.6%
疲れ	0.0%	0.4%	0.9%	1.8%	1.5%	1.3%	1.4%
人目が気になる	0.0%	0.4%	0.6%	1.2%	1.3%	0.8%	1.1%
くやしい	0.0%	1.1%	1.3%	1.0%	0.9%	1.0%	1.0%
あきらめ	0.0%	0.2%	0.7%	0.8%	1.0%	0.3%	0.8%
満足・充実感	0.0%	0.7%	0.7%	0.6%	0.8%	0.8%	0.7%
傷つきたくない	0.0%	0.5%	0.4%	0.7%	0.7%	0.3%	0.6%
幸せ	0.0%	0.3%	0.3%	0.5%	0.6%	0.4%	0.5%
傷つけたくない	1.6%	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
不明	11.1%	4.9%	5.7%	5.1%	7.0%	22.1%	7.7%
その他	6.3%	4.8%	4.6%	4.4%	4.7%	8.9%	5.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

オンラインチャット

男女とも「つらい・苦しい」の割合が最も多く、全体では 20%を超え、電話の 2 倍以上になっています。年齢別では、中卒～ 18 歳の 30%以上が「つらい・苦しい」気持ちを綴っています。「うれしい・たのしい」「幸せ」「楽しみ・期待」などのポジティブな気持ちは電話より少ない傾向です。

性別/気持ち	男 n=622	女 n=4,300	不明 n=290	全体 n=5,212
つらい・苦しい	17.2%	23.2%	23.4%	22.5%
不安	16.1%	15.2%	12.1%	15.1%
イヤだ	12.2%	11.9%	11.7%	11.9%
困惑・困っている	11.9%	10.0%	12.1%	10.3%
葛藤・迷い・戸惑い	5.8%	5.7%	4.1%	5.6%
恐怖・怖い	4.3%	5.2%	6.6%	5.2%
自分に自信がない	4.7%	4.3%	2.4%	4.3%
憂鬱	3.7%	3.8%	3.1%	3.8%
怒り・いらだち	5.0%	2.7%	2.4%	3.0%
悲しい	2.4%	2.9%	1.0%	2.8%
孤独・寂しさ	1.3%	2.2%	0.7%	2.0%
疲れ	1.8%	1.6%	2.1%	1.7%
うれしい・たのしい	1.4%	1.3%	1.7%	1.3%
人目が気になる	0.6%	1.2%	1.7%	1.1%
あきらめ	1.6%	0.9%	0.7%	1.0%
くやしい	1.0%	1.0%	0.3%	0.9%
楽しみ・期待	2.1%	0.7%	1.0%	0.9%
傷つきたくない	1.0%	0.5%	0.3%	0.6%
傷つけたくない	0.2%	0.4%	0.0%	0.3%
満足・充実感	0.2%	0.2%	1.0%	0.3%
幸せ	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%
不明	2.9%	2.3%	8.3%	2.7%
その他	2.6%	2.4%	2.8%	2.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

年齢/気持ち	未就学 n=1	小学校低学年 n=130	小学校高学年 n=1,582	中学生 n=1,877	中卒～18歳 n=1,384	不明 n=238	全体 n=5212
つらい・苦しい	0.0%	13.8%	15.5%	24.0%	30.3%	17.2%	22.5%
不安	0.0%	8.5%	14.8%	15.6%	16.0%	12.6%	15.1%
イヤだ	100.0%	23.8%	16.7%	10.2%	7.1%	15.1%	11.9%
困惑・困っている	0.0%	11.5%	11.6%	10.7%	8.1%	10.9%	10.3%
葛藤・迷い・戸惑い	0.0%	2.3%	4.7%	6.8%	5.8%	3.8%	5.6%
恐怖・怖い	0.0%	7.7%	5.4%	5.0%	4.9%	5.5%	5.2%
自分に自信がない	0.0%	1.5%	4.1%	4.0%	5.4%	1.7%	4.3%
憂鬱	0.0%	0.8%	3.2%	4.2%	4.2%	3.8%	3.8%
怒り・いらだち	0.0%	1.5%	3.3%	3.0%	2.7%	2.9%	3.0%
悲しい	0.0%	9.2%	3.6%	1.9%	2.6%	1.7%	2.8%
孤独・寂しさ	0.0%	3.1%	2.5%	2.0%	1.6%	1.3%	2.0%
疲れ	0.0%	0.0%	1.3%	1.4%	2.5%	1.7%	1.7%
うれしい・たのしい	0.0%	3.1%	1.9%	1.1%	0.6%	2.9%	1.3%
人目が気になる	0.0%	1.5%	1.1%	1.3%	1.0%	0.4%	1.1%
あきらめ	0.0%	0.8%	0.7%	1.3%	0.9%	0.8%	1.0%
くやしい	0.0%	2.3%	1.0%	0.9%	0.9%	0.4%	0.9%
楽しみ・期待	0.0%	0.8%	1.1%	1.0%	0.4%	1.7%	0.9%
傷つきたくない	0.0%	0.8%	0.4%	0.6%	0.7%	0.4%	0.6%
傷つけたくない	0.0%	0.0%	0.6%	0.2%	0.2%	0.4%	0.3%
満足・充実感	0.0%	0.0%	0.3%	0.2%	0.1%	2.1%	0.3%
幸せ	0.0%	1.5%	0.2%	0.2%	0.0%	0.4%	0.2%
不明	0.0%	3.1%	2.7%	2.3%	2.0%	9.7%	2.7%
その他	0.0%	2.3%	3.3%	2.1%	2.0%	2.5%	2.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

都道府県別カード配布状況　全国の子どもに 1,210 万枚のカードを配布

子どもたちにチャイルドラインを知ってもらい、必要な時に利用できるように、チャイルドラインの情報を掲載した名刺大のカードを配布しています。2021 年度は P31 表のように、全国の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校などへ約 1,200 万枚のカードを配布しました。配布には各都道府県、市区町村の教育委員会や校長会、私学協会などのご協力を得て行っています。子ども向けの広報はカード配布だけではなく SNS の利用、各地のイベントへの出展やマスコミとの協力など、実施団体がそれぞれ工夫をして行っています。

企業・他団体との連携

例年、社会貢献活動として企業の方たちにボランティアで担っていただいていますが、2021 年度は COVID-19 の感染拡大状況が予測できないため実施できず、個人ボランティアの 協力を得て、チャイルドライン支援センターの事務局から配布しました。

また、全国の小児科医院 5,600 か所、児童館 2,800 館にポスターを配布したほか、「#学校ムリでもここあるよキャンペーン 2021」に賛同・協力し、全国のこども食堂、フリースクール、冒険遊び場など 112 か所にカード・ポスターを配布しました。

都道府県	カード配布枚数	子ども人口	カード枚数／子ども人口比	2021年度発信数	人口あたりの発信数
北海道	550,000枚	485,824名	113.2%	12,264件	2.5%
青森県	94,079枚	119,622名	78.6%	1,064件	0.9%
秋田県	120,000枚	86,579名	138.6%	2,028件	2.3%
岩手県	122,000枚	125,665名	97.1%	5,576件	4.4%
宮城県	238,150枚	233,158名	102.1%	9,042件	3.9%
山形県	25,000枚	108,937名	22.9%	11,035件	10.1%
福島県	326,541枚	186,997名	174.6%	4,268件	2.3%
新潟県	95,000枚	219,290名	43.3%	8,376件	3.8%
長野県	380,080枚	221,996名	171.2%	5,708件	2.6%
群馬県	225,710枚	201,721名	111.9%	5,295件	2.6%
栃木県	200,000枚	205,668名	97.2%	3,324件	1.6%
茨城県	331,040枚	313,788名	105.5%	5,569件	1.8%
東京都	723,131枚	1,243,850名	58.1%	66,282件	5.3%
神奈川県	877,600枚	898,247名	97.7%	25,231件	2.8%
千葉県	205,000枚	628,600名	32.6%	16,755件	2.7%
埼玉県	912,910枚	674,680名	135.3%	28,996件	4.3%
山梨県	100,000枚	87,342名	114.5%	1,308件	1.5%
愛知県	895,020枚	823,523名	108.7%	62,791件	7.6%
静岡県	292,925枚	387,181名	75.7%	12,419件	3.2%
岐阜県	200,000枚	218,112名	91.7%	9,325件	4.3%
三重県	660,000枚	187,909名	351.2%	5,598件	3.0%
富山県	120,000枚	103,632名	115.8%	2,704件	2.6%
石川県	140,000枚	120,963名	115.7%	2,197件	1.8%
福井県	82,000枚	84,261名	97.3%	1,784件	2.1%
大阪府	331,833枚	890,687名	37.3%	55,992件	6.3%
京都府	280,000枚	264,904名	105.7%	9,106件	3.4%
滋賀県	100,000枚	163,717名	61.1%	8,643件	5.3%
奈良県	0枚	144,147名	0.0%	1,013件	0.7%
和歌山県	0枚	94,636名	0.0%	12,958件	13.7%
兵庫県	480,400枚	568,330名	84.5%	15,070件	2.7%
岡山県	76,000枚	203,939名	37.3%	5,224件	2.6%
広島県	563,900枚	301,348名	187.1%	5,264件	1.7%
島根県	80,000枚	72,465名	110.4%	1,051件	1.5%
鳥取県	70,000枚	58,893名	118.9%	2,410件	4.1%
山口県	215,000枚	137,650名	156.2%	2,610件	1.9%
香川県	163,800枚	102,191名	160.3%	409件	0.4%
徳島県	100,000枚	71,280名	140.3%	638件	0.9%
高知県	154,000枚	67,609名	227.8%	1,134件	1.7%
愛媛県	145,000枚	138,519名	104.7%	714件	0.5%
福岡県	210,000枚	554,853名	37.8%	12,806件	2.3%
佐賀県	149,640枚	95,505名	156.7%	2,107件	2.2%
長崎県	61,100枚	128,471名	47.6%	2,640件	2.1%
熊本県	218,480枚	195,528名	111.7%	1,785件	0.9%
大分県	263,000枚	119,615名	219.9%	2,120件	1.8%
宮崎県	141,700枚	121,436名	116.7%	1,233件	1.0%
鹿児島県	144,320枚	192,474名	75.0%	1,236件	0.6%
沖縄県	242,320枚	219,285名	110.5%	2,612件	1.2%
合計	12,106,679枚	12,875,027名			

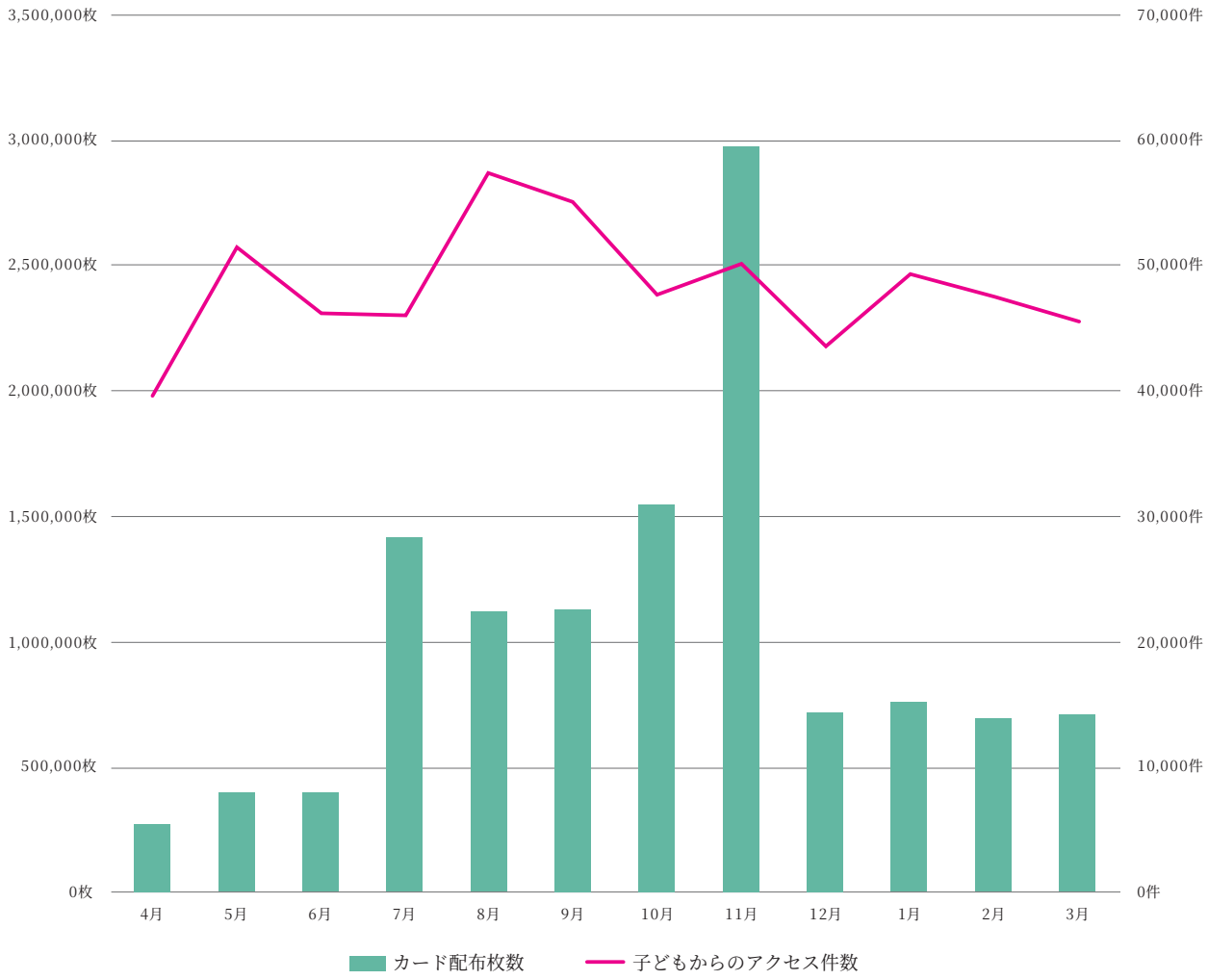
※子ども人口:2020年度都道府県教育委員会学校基本基本調査より

月別カード配布枚数とフリーダイヤル・オンラインチャットのアクセス数

2021 年度は 11 月に児童虐待防止推進月間に合わせキャンペーンを実施し、実施団体は体制強化と共に広報にも力を入れ、約 300 万枚のカードを配布しました。COVID-19 が活動に影響を残した 1 年ではありましたが、昨年より 80 万枚多くのカードを配布しました。子どもたちのうつ傾向の増加が報道される中、落ち込んでいる子どもにカードが届き、気持ちの支えになっていたらと思います。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
カード配布枚数		271,800枚	392,000枚	392,920枚	1,417,641枚	1,121,213枚	1,124,320枚	1,543,940枚
子どもからのアクセス件数		39,687件	51,447件	46,207件	46,029件	57,356件	55,008件	47,598件
アクセスの内訳	フリーダイヤル発信数	33,130件	45,310件	37,991件	37,319件	47,986件	42,073件	36,368件
	オンラインチャット訪問件数	6,557件	6,137件	8,216件	8,710件	9,370件	12,935件	11,230件

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
カード配布枚数		1,543,940枚	2,976,455枚	716,929枚	754,441枚	686,020枚	709,000枚	12,106,679枚	1,008,889枚
子どもからのアクセス件数		47,598件	50,112件	43,592件	49,315件	47,546件	45,531件	579,428件	48,286件
アクセスの内訳	フリーダイヤル発信数	36,368件	36,692件	32,493件	37,436件	35,953件	34,963件	457,714件	38,143件
	オンラインチャット訪問件数	11,230件	13,420件	11,099件	11,879件	11,593件	10,568件	121,714件	10,143件



新聞・インターネットニュース

Yahoo!ニュース		通年	相談窓口として情報掲載
毎日新聞		通年	相談窓口として情報掲載
gooニュース		通年	相談窓口として情報掲載
withnews（ウィズニュース）		通年	相談窓口として情報掲載
NHK NEWS WEB		2021年6月26日	相談窓口として情報掲載
毎日新聞	「海外で日本人を孤立させない　SNS通じてNPOに悩み相談　外務省」	2021年7月9日	
時事通信	「在外邦人の孤独対策に着手　NPOと連携、相談体制構築―外務省」	2021年7月19日	
まぐまぐニュース!	「在外邦人の孤独対策に着手　NPOと連携、相談体制構築―外務省」	2021年7月19日	
毎日放送		2021年8月2日	年間通して相談窓口として情報掲載
時事通信	「全国100ヶ所以上の居場所と連携!夏休み明けの子どもの自死を防止する「 #学校ムリでもここあるキャンペーン」	2021年8月14日	
エキサイトニュース	「全国100ヶ所以上の居場所と連携!夏休み明けの子どもの自死を防止する「#学校ムリでもここあるよ」キャンペーン8月19日開始」	2021年8月17日	
Yahoo!ニュース	「学校や家族ムリでも居場所ある 子どもたちに呼びかけ」（朝日新聞デジタル）	2021年8月24日	
Yahoo!ニュース	「『学校行きたくない』子どものSOS見逃さないで」（朝日新聞デジタル）	2021年8月24日	相談窓口として情報掲載
朝日新聞デジタル		2021年8月24日	年間通して相談窓口として情報掲載
日本教育新聞社		2021年8月24日	相談窓口として情報掲載
大阪関西テレビ		2021年8月24日	情報掲載　フリーダイヤルと時間
ニフティニュース		2021年8月27日	相談窓口として情報掲載
EdTechZine（エドテックジン）	「Yahoo!ニュース、自殺防止を目的とした特設ページ「生きるのがつらいあなたへ」を公開」	2021年8月27日	
朝日新聞デジタル	「コロナ禍の夏休み明け、子どもの心に寄り添って 登校の悩みに加えストレスも」	2021年8月30日	
USフロントライン		2021年8月31日	相談窓口として情報掲載
南日本放送		2021年9月2日	相談窓口として情報掲載
AbemaTIMES		2021年9月2日	相談窓口として情報掲載
東洋経済オンライン	「子どもの電話相談「雑談したい」が多数という衝撃 話を聞かず、すぐ怒ったり助言する大人たちへ」	2021年9月29日	
MBSニュース		2021年10月1日	相談窓口として情報掲載
共同通信	「孤立させない場作りを」	2021年11月2日	
THE RIVER		2021年11月2日	相談窓口として情報掲載
BIGLOBEニュース		2021年11月2日	年間通して相談窓口として情報掲載
北海道新聞	「孤立防ぐ場所欲しい」	2021年11月3日	
読売中高生新聞		2021年12月3日	相談窓口として情報掲載
J-CAST ニュース		2021年12月23日	相談窓口として情報掲載
NPO法人 ぷるすあるは	アプリ『ことてん』	2022年1月	相談窓口として情報掲載
時事通信	「子どもたちの幸せを支える地域の活動を応援する『2022年度 東急子ども応援プログラム』助成先決定」	2022年3月25日	
Yahoo!きっず		2022年春公開予定	相談窓口紹介

雑誌・書籍・刊行物・資料

KADOKAWA	『学校では教えてくれない自分を休ませる方法』	2021年4月14日	相談窓口として情報掲載
新潮社	『二コラ』	2021年5月号	相談窓口として情報掲載
西東社	『ミラクルガール相談室　女の子のトリセツ　カラフルdays』	2021年6月1日	相談窓口として情報掲載
大泉書店	『はじめての「からだ」と「性」のえほん　だいじだいじ どーこだ?』	2021年7月1日	相談窓口として情報掲載
全日本家庭教育研究会	『月刊ポピーf』	2021年8月号	
朝日新聞出版	『AERA』	2021年9月6日号	相談窓口として情報掲載
トゥーヴァージンズ	『HEARTSTOPPER』3巻	2021年9月16日	相談窓口として情報掲載
ほるぷ出版	『10歳からのカラダ・性・ココロのいろいろブック』	2021年12月28日	相談窓口として情報掲載
国民生活センター	『くらしの豆知識』	2022年版	相談窓口として情報掲載
国土社	『LGBTだけじゃない わたしの性　シリーズ』	2022年	相談窓口として情報掲載
大日本書籍	『新版 たのしい保健 5・6年』	2024年～2027年	相談窓口として情報掲載
河出書房新社	『10代で知っておきたい「同意」の話』	2022年1月30日	相談窓口として情報掲載
鈴木出版	『自分を守るクエスト』	2022年1～2月	相談窓口として情報掲載
KADOKAWA	世界はとつぜん変わってしまう	2022年2月9日	
小学館「ポスト・セブン」局	『子育て・教育の新常識』	2022年4月7日	
帝国書院	『高等学校　公共』（拡大教科書）	2022年4月1日	相談窓口として情報掲載
ポプラ社	子ども向け単行本カバー裏扉	通年	相談窓口として情報掲載

全国各地のチャイルドライン

電話・オンラインチャットは全国の実施団体がそれぞれの拠点で対応しています。

実施団体のない県や災害時でも子どもからの発信を受信できるよう、協力して体制を作っています。

2022年4月1日現在　38都道府県67団体

エリア	所在地		チャイルドライン名	団体名	連絡先
北海道東北	北海道	札幌市	チャイルドラインほっかいどう	NPO法人チャイルドラインほっかいどう	011-272-3755
	青森県	青森市	チャイルドラインあおもり	チャイルドラインあおもり	070-1355-2678
		弘前市	チャイルドラインひろさき	チャイルドラインひろさき	090-3129-4581
	岩手県	盛岡市	チャイルドラインいわて	チャイルドラインいわて	090-9748-7557
	宮城県	仙台市	チャイルドラインみやぎ	NPO法人チャイルドラインみやぎ	022-279-7210
	秋田県	秋田市	チャイルドラインあきた	NPO法人あきた子どもネット	090-2995-0313
	福島県	福島市	チャイルドラインふくしま	チャイルドラインふくしま	024-563-4191
		郡山市	チャイルドラインこおりやま	チャイルドラインこおりやま	024-942-4036
北関東信越	新潟県	新潟市	チャイルドラインにいがた	チャイルドラインにいがた	090-6167-4158
	栃木県	宇都宮市	チャイルドラインとちぎ	NPO法人チャイルドラインとちぎ	028-614-3253
	群馬県	前橋市	チャイルドラインぐんま	チャイルドラインぐんま	027-289-4365
	長野県	長野市	チャイルドラインながの	NPO法人ながのこどもの城	090-9667-0874
		上田市	チャイルドラインうえだ	NPO法人シャイン	090-3565-7086
		諏訪市	チャイルドラインすわ	チャイルドラインすわ	0266-58-3494
		佐久市	チャイルドライン佐久	NPO法人チャイルドライン佐久	070-4189-0155
	埼玉県	朝霞市	さいたまチャイルドライン	NPO法人さいたまチャイルドライン	048-486-7171
	千葉県	千葉市	チャイルドライン千葉	NPO法人子ども劇場千葉県センター	043-301-7262

エリア	所在地		チャイルドライン名	団体名	連絡先
南関東	山梨県	韮崎市	チャイルドラインやまなし	チャイルドラインやまなし	0551-23-5145
	東京都	港区	みなとチャイルドライン	みなとチャイルドライン	090-7284-0378
		江東区	とうきょうかわのてチャイルドライン	NPO法人こうとう親子センター	03-3632-1717
		品川区	しながわチャイルドライン	NPO法人しながわチャイルドライン	03-5462-2868
		目黒区	めぐろチャイルドライン	NPO法人めぐろチャイルドライン	03-6712-7773
		世田谷区	せたがやチャイルドライン	社会福祉法人世田谷ボランティア協会	03-5712-5101
		中野区	チャイルドライン 中野子ども電話	チャイルドライン 中野子ども電話	080-3919-0489
		杉並区	チャイルドラインすぎなみ	チャイルドラインすぎなみ	090-6012-3903
		八王子市	チャイルドライン八王子 子どもの電話★21	NPO法人子どもネット“八王子”	042-683-0078
		八王子市	八王子チャイルドラインコッコロ	NPO法人八王子チャイルドライン	090-4417-3355
		立川市	チャイルドラインたちかわ	チャイルドラインたちかわ	cl.tachikawa@gmail.com
		武蔵野市	チャイルドラインむさしの	NPO法人チャイルドラインむさしの	080-5679-5100
		狛江市	こまえチャイルドライン	こまえチャイルドライン	03-3489-4583
	神奈川県	横浜市	よこはまチャイルドライン	認定NPO法人よこはまチャイルドライン	045-342-0255
		川崎市	かわさきチャイルドライン	かわさきチャイルドライン	080-6756-7763
東海	岐阜県	岐阜市	チャイルドラインぎふ	NPO法人チャイルドラインぎふ	080-1550-6050
	静岡県	焼津市	しずおかチャイルドライン	NPO法人静岡家庭教育サポート協会	054-631-6762
		浜松市	はままつチャイルドライン	はままつチャイルドライン	ykaoki1@gmail.com
	愛知県	名古屋市	チャイルドラインあいち	NPO法人チャイルドラインあいち	052-822-2801
		安城市	チャイルドラインみかわ	NPO法人おやこでのびっこ安城	0566-77-7085
	三重県	津市	チャイルドラインMIE	NPO法人チャイルドラインヘルプラインMIEネットワーク	059-211-0024
北陸近畿	富山県	富山市	とやまチャイルドライン	とやまチャイルドライン愛ランド	090-3764-3666
	石川県	金沢市	チャイルドライン・いしかわ	子ども夢フォーラム	076-214-5680
	福井県	福井市	ふくいチャイルドライン	認定NPO法人福井県子どもNPOセンター	0776-97-8460
	滋賀県	大津市	しがチャイルドライン	NPO法人CASN	077-537-5922
	奈良県	奈良市	チャイルドラインなら	NPO法人チャイルドラインなら	0742-20-0202
	京都府	京都市	チャイルドライン京都	NPO法人チャイルドライン京都	075-585-3038
	大阪府	大阪市	チャイルドラインOSAKA	公益社団法人子ども情報研究センター	06-4708-7087
		吹田市	チャイルドラインすいた	こらぼれチップス	06-6382-0290
		富田林市	チャイルドラインとんだばやし	NPO法人チャイルドラインとんだばやし	0721-20-0285
		和泉市	チャイルドラインいずみ	いずみこどもAID	070-8467-2747
		東大阪市	チャイルドラインひがしおおさか	チャイルドラインひがしおおさか	childline.h@gmail.com
		阪南市	チャイルドラインはらっぱ	NPO法人子どもNPOはらっぱ	072-471-2276
中国四国	鳥取県	倉吉市	チャイルドラインうさぎのみみ	チャイルドラインうさぎのみみ	090-6432-2967
	岡山県	岡山市	チャイルドラインおかやま	NPO法人チャイルドラインおかやま	086-956-3700
	広島県	広島市	ひろしまチャイルドライン	NPO法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション	082-233-8655
		福山市	チャイルドラインびんご	子どもサポネット「ハートフル」	090-8712-1803
	山口県	宇部市	チャイルドラインやまぐち	NPO法人子ども劇場山口県センター	0836-32-4287
		岩国市	チャイルドライン岩国ステーション	チャイルドライン岩国ステーション	080-1636-1135
		下関市	チャイルドラインしものせき	チャイルドラインしものせき	083-256-6888
	徳島県	徳島市	とくしまチャイルドライン	とくしまチャイルドライン	088-669-2776
	愛媛県	松山市	チャイルドライン　ハートコール・えひめ	子ども電話「ひびき」	089-923-9558
	高知県	高知市	チャイルドラインこうち	チャイルドラインこうち	090-2788-9977
九州沖縄	福岡県	北九州市	チャイルドライン北九州	NPO法人チャイルドライン北九州	090-7924-5036
		福岡市	チャイルドライン「もしもしキモチ」	チャイルドライン「もしもしキモチ」	092-734-1540
	長崎県	長崎市	チャイルドラインながさき	NPO法人チャイルドラインながさき	095-801-5521
		佐世保市	チャイルドラインさせぼ	チャイルドラインさせぼ	0956-24-0214
	大分県	大分市	チャイルドラインおおいた	チャイルドラインおおいた	090-3322-3699
	宮崎県	宮崎市	チャイルドラインみやざき	NPO法人チャイルドラインみやざき	0985-41-8228
	鹿児島県	鹿児島市	チャイルドラインかごしま	チャイルドラインかごしま	cl-kagoshima_200926@po3.synapse.ne.jp

準備団体

	山形県	鶴岡市	チャイルドライン庄内	NPO法人しぇば	

休止団体

	島根県	松江市	チャイルドラインしまね	チャイルドラインしまね	
	岡山県	笠岡市	チャイルドラインかさおか	チャイルドラインかさおか	

チャイルドライン実施体制と運営

実施団体との協働

チャイルドラインは全国 67 団体とチャイルドライン支援センターが協働して実施しています。実施団体は電話・オンラインチャットの実施だけではなく、受けた子どもの声をデータ化し、統一のデータベースに集約しています。また所在している地域での、子どもへの広報、社会発信、行政や子ども支援団体との連携なども担っています。

チャイルドライン支援センターは、全国の団体が受信した電話やオンラインチャットのデータ集計や、「つぶやく」に書き込まれた声などを、社会に向けて発信しています。また、子どもの権利が保障され、子どもが生きやすい社会になるようにチャイルドライン支援議員連盟、CHI（Child Helpline International）や子ども支援の団体と連携しています。

実施団体の活動状況

運営体制

実施団体はそれぞれが独立した団体で、運営形態はさまざまです。

運営形態

任意団体	32団体
NPO法人	30団体
認定NPO法人	3団体
公益社団法人	1団体
社会福祉法人	1団体

ボランティア

ボランティア数　1,773 名（2021 年 4 月 1 日現在）

昨年度（1,899 名）より 126 名減少しています。昨年度に引き続き、COVID-19 の影響でボランティア養成講座が開催できない団体があったこと、活動に参加しにくくなったことが要因と考えられます。

ボランティアには、子どもの声を聴く「受け手」、受け手のケアを担う「支え手」、活動の運営を担う人たちがいます。

活動資金

67 の実施団体の年間支出額は約 1 億円、チャイルドライン支援センターと合わせると 1 億 5 千万円以上になりました。

実施団体は拠点の維持、子どもへの広報、ボランティアの養成講座、社会発信などの資金調達もそれぞれで行っています。多くの個人・企業・行政の皆さまのご支援に支えられています。

支出額	団体数	比率
1,000万円以上	1団体	1.4%
500～999万円	3団体	4.3%
250～499万円	6団体	8.6%
100～249万円	21団体	30.0%
50～99.9万円	12団体	17.1%
50万円未満	24団体	34.3%

チャイルドライン支援センター

会員数　正会員：個人 33 名　団体 72　支援会員：個人 34 名　団体 3 名

組織体制

代表理事	小林 純子	NPO 法人チャイルドラインみやぎ代表理事 宮城県社会的養護自立支援事業支援コーディネーター
代表理事	竹村 浩	認定 NPO 法人チャイルドヘルプライン MIE ネットワーク 専務理事・事務局長（チャイルドライン MIE）
常務理事	佐々木 一憲	チャイルドラインいわて代表
常務理事	平井 貴美子	チャイルドラインおおいた代表
理　事	上野 和子	NPO 法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション理事長
理　事	金子 由美子	NPO 法人さいたまユースサポートネット副代表
理　事	後藤 幾子	NPO 法人みやざき子ども文化センター理事 みやざき女性自立活躍支援ネットワーク代表世話人
理　事	関戸 真紀	いずみこども AID 役員（チャイルドラインいずみ）
理　事	髙木 眞理子	子ども夢フォーラム代表（チャイルドラインいしかわ）
理　事	髙橋 弘恵	NPO 法人チャイルドラインあいち専務理事 子どもアドボカシーセンター NAGOYA 理事
理　事	田野 浩美	せたがやチャイルドライン運営委員長
理　事	外村 まき	NPO 法人チャイルドライン京都コロナ対策アドバイザー 京都府人権教育啓発懇話会委員
理　事	中村 尊	NPO 法人フリースクール全国ネットワーク代表理事 NPO 法人チャイルドライン・ながさき共同代表
理　事	中村 幸恵	NPO 法人子ども劇場千葉県センター理事（チャイルドライン千葉）
監　事	鈴木 綾	こおりやま子ども若者ネット代表 一般社団法人若者協同実践全国フォーラム理事
監　事	西﨑 宏美	認定 NPO 法人子どもシェルターモモ専務理事

（2022 年 4 月 1 日現在）

財務状況

2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）

経常収益	受取会費	2,580,000円
	受取寄付金	16,857,950円
	受取補助金	38,946,000円
	受取助成金	1,848,084円
	事業収益その他　（資料代）	5,479,976円
	（協賛金）	1,000,000円
	経常収益計	66,712,010円

経常費用	チャイルドライン事業	34,436,865円
	アドボカシー事業	16,663,791円
	管理費	3,806,195円
	経常費用計	54,906,851円

ご支援・ご協力一覧

多くの方のご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

チャイルドライン支援センターはみなさまからのご寄付、会員からの会費、補助金、助成金で運営しています。また子どもたちへのカード広報など、活動に賛同する多くの企業、社員のみなさまとの協働・ボランティアに活動を支えていただいています。

法人、団体の皆様のみ掲載（敬称略、順不同）

寄付・協賛

日本電信電話株式会社
宗教法人真如苑
ソフトバンク株式会社
株式会社 NTT ドコモ
MS & AD ゆにぞんスマイルクラブ
チャイルドライン支援議員連盟
KDDI株式会社
つながる募金（ソフトバンク）
三和グループ社会貢献倶楽部
東京海上 Share Happiness 倶楽部
株式会社オプテージ
一般社団法人ほのぼの運動協議会
東京海上ビジネスサポート株式会社
株式会社ユサブル
クオリティ翻訳株式会社
一般財団法人全国学生保障援助会
株式会社おそうじ革命
若松測量設計株式会社
株式会社ヘンプフーズジャパン
鎮西学院高等学校
すぎやまこどもクリニック
JCHO 徳山中央病院小児科
医療法人蒼会
リンナイ株式会社
東邦ガス株式会社
エスビー食品株式会社
日本碍子株式会社
コクヨ株式会社
サントリーホールディングス株式会社
リンベル株式会社
gooddo 株式会社
まえはら小児科
医療法人キュレスト山森小児科
株式会社佐藤建設
シクミオ株式会社
株式会社ラングランズ

●補助
厚生労働省「自殺防止対策事業」
●助成
公益財団法人JKA「競輪補助事業」
日本労働組合総連合会「連合・愛のカンパ」
●後援「2021チャイルドライン全国キャンペーン」
「2022チャイルドライン全国キャンペーン」
内閣府
文部科学省
厚生労働省
総務省
チャイルドライン支援議員連盟
社会福祉法人全国社会福祉協議会
公益社団法人日本小児科医会
公益社団法人日本医師会
一般社団法人いのちの電話
特定非営利活動法人日本NPOｾﾝﾀｰ

●協力
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
NTTコムマーケティング株式会社
株式会社 博報堂
株式会社ピーアンドピービューロゥ
株式会社三門印刷所
株式会社ジーニー（AI.BiS）
全日本自治団体労働組合
株式会社創造集団440Hz
株式会社ティピカル・ジャパン
株式会社デンカク
イノウデザイン株式会社
有限会社トランスプロジェクト
有限会社考学舎
株式会社アイテム
有限会社萌文社
ツナガルラボ
東京ボランティア・市民活動センター
雨宮国際特許事務所
税理士法人未来総合会計事務所
社会保険労務士法人CANAL
公益社団法人日本フィランソロピー協会

<子ども広報>
公益社団法人日本小児科医会
一般財団法人児童健全育成推進財団
NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
#学校ムリでもここあるよキャンペーン
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
株式会社ポプラ社
茨城県教育委員会
兵庫県教育委員会
香川県教育委員会
佐賀県教育委員会
熊本県教育委員会
熊本市教育委員会
沖縄県教育委員会

チャイルドライン支援議員連盟

チャイルドライン支援議員連盟はチャイルドライン設立推進議員連盟として 1997 年 11 月発足し、現在は 77 名の超党派の議員で構成されています。

■役員体制（所属政党）（敬称略）

会　長
河村　建夫

副会長
泉　　健太（立民）
高橋千鶴子（共産）

幹　事
田嶋　　要（立民）
後藤田正純（自民）
阿部　知子（立民）

事務局長
小西　洋之（立憲）

幹事長代理
浮島　智子（公明）

名前	会派	衆参	選挙区
安藤　高夫	自由民主党	衆	比例東京
伊東　良孝	自由民主党	衆	北海道7区
江渡　聡徳	自由民主党	衆	比例東北
衛藤　征士郎	自由民主党	衆	大分2区
遠藤　利明	自由民主党	衆	山形1区
大岡　敏孝	自由民主党	衆	滋賀1区
上川　陽子	自由民主党	衆	静岡1区
岸田　文雄	自由民主党	衆	広島1区
北村　誠吾	自由民主党	衆	長崎4区
工藤　彰三	自由民主党	衆	愛知4区
後藤田　正純	自由民主党	衆	徳島1区
坂本　哲志	自由民主党	衆	熊本3区
佐々木　紀	自由民主党	衆	石川2区
塩谷　立	自由民主党	衆	静岡8区
薗浦　健太郎	自由民主党	衆	千葉5区
武部　新	自由民主党	衆	北海道12区
永岡　桂子	自由民主党	衆	比例北関東
長島　昭久	自由民主党	衆	東京21
野田　聖子	自由民主党	衆	岐阜1区
野中　厚	自由民主党	衆	埼玉12区
平井　たくや	自由民主党	衆	香川1区
藤井　比早之	自由民主党	衆	兵庫4区
船田　元	自由民主党	衆	栃木1区
松野　博一	自由民主党	衆	千葉3区
今井　絵理子	自由民主党	参	比例
猪口　邦子	自由民主党	参	千葉
上野　通子	自由民主党	参	栃木
櫻井　充	自由民主党	参	宮城
末松　信介	自由民主党	参	兵庫
そのだ　修光	自由民主党	参	比例
中川　雅治	自由民主党	参	東京
増子　輝彦	自由民主党	参	福島
松下　新平	自由民主党	参	宮崎
浮島　智子	公明党	衆	比例近畿
佐藤　英道	公明党	衆	比例北海道
古屋　範子	公明党	衆	比例南関東
山崎　正恭	公明党	衆	比例四国
阿部　知子	立憲民主党	衆	神奈川12区
石川　香織	立憲民主党	衆	北海道11区

名前	会派	衆参	選挙区
泉　健太	立憲民主党	衆	京都3区
伊藤　俊輔	立憲民主党	衆	比例東京
枝野　幸男	立憲民主党	衆	埼玉5区
大河原　雅子	立憲民主党	衆	比例北関東
逢坂　誠二	立憲民主党	衆	北海道8区
大島　敦	立憲民主党	衆	埼玉6区
岡本　あき子	立憲民主党	衆	比例東北
柿沢　未途	立憲民主党	衆	比例東京
田嶋　要	立憲民主党	衆	比例南関東
中川　正春	立憲民主党	衆	三重2区
中谷　一馬	立憲民主党	衆	比例南関東
原口　一博	立憲民主党	衆	佐賀1区
牧　義夫	立憲民主党	衆	比例東海
松原　仁	立憲民主党	衆	比例東京
道下　大樹	立憲民主党	衆	北海道1区
森山　浩行	立憲民主党	衆	比例近畿
山崎　誠	立憲民主党	衆	比例東北
山井　和則	立憲民主党	衆	比例近畿
渡辺　周	立憲民主党	衆	静岡6区
石川　大我	立憲民主党	参	比例
小川　敏夫	立憲民主党	参	東京
小西　洋之	立憲民主党	参	千葉
田名部　匡代	立憲民主党	参	青森
福山　哲郎	立憲民主党	参	京都
宮口　治子	立憲民主党	参	広島
蓮　舫	立憲民主党	参	東京
梅村　みずほ	日本維新の会	参	大阪
鈴木　宗男	日本維新の会	参	比例
宮本　徹	共産党	衆	比例東京
高橋　千鶴子	共産党	衆	比例東北
小池　晃	共産党	参	比例
田村　智子	共産党	参	比例
前原　誠司	国民民主党	衆	京都2区
ながえ　孝子	碧水会	参	愛媛
嘉田　由紀子	碧水会	参	滋賀
船後　靖彦	れいわ新選組	参	比例
安達　澄	無所属	参	大分
寺田　静	無所属	参	秋田

「みんなのあるある」

オンラインチャットをするために、「つぶやく」ために、またなんとなく気になって、とチャイルドライン支援センターのホームページにはたくさんの子どもが訪れてくれます。そんな子どもたちへ、チャイルドラインとして「伝えたい思い」や「知っておいてほしいこと」をまとめました。

「2021 全国キャンペーン ～今こそ子どもたちにチャイルドラインを～」

2021年 11月、児童虐待防止推進月間に合わせ、全国キャンペーンを実施しました。「チャイルドラインがあってよかった!」「チャイルドラインには安心して話ができる」と子どもたちに思ってもらえるように、全国68団体が力を合わせ、広報活動・受信体制の強化に取り組みました。

キャンペーン内容

○期間:2021年11月1日～30日(児童虐待防止推進月間)
○実施体制　P16参照

実施結果

	期間中平均		2021年度平均	
	1日着信・対応数	着信率	1日着信・対応数	着信率
電話	484件	39.6%	454件	35.6%
オンラインチャット	115件	38.9%	62件	31.9%

電話・オンラインチャットともに、着信（対応）率が上がりました。特に、オンラインチャットは、キャンペーン時に実施団体が 18 団体から 27 団体に増えたこともあり、大きく上昇しました。
※データの詳細は、支援センターホームページをご覧ください。

編集後記

年次報告は、全国の実施団体が子ども一人ひとりに向き合った結果を元に作成されます。では、そのたくさんの子どもの声を通して、社会に何を発信するのか、どう発信すれば伝わるのか、悩みながらの編集作業となりました。まだまだ拙いものではありますが、たくさんの方に手にとっていただき、子どもが生きやすい社会の実現に向けて協力、連携していけることを願っております。そして、チャイルドラインは 2022 年度も、SDGs「持続可能な開発目標」の達成に不可欠な活動として、子どもの課題ひとつひとつと向き合っていきたいと思います。

「2022 チャイルドライン年次報告」発行にあたり、ご支援ご協力いただいた皆さま、全国の実施団体の皆さまに心より感謝申し上げます。

チャイルドライン支援センター 子どもの声の分析・年次報告チーム

2022チャイルドライン年次報告
CHILDLINE ANNUAL REPORT 2022

発行日：2022年6月15日　第1版　第1刷
発　行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）
〒162-0808　東京都新宿区天神町14　神楽坂藤井ビル5階
TEL：03-5946-8500　FAX：03-5946-8501
E-mail：info@childline.or.jp　URL: https://childline.or.jp
表紙・レイアウト・デザイン：イノウデザイン株式会社
印刷製本：株式会社グラフィック

※無断で複製・転載することを禁じます
※「チャイルドライン。」および「チャイルドライン・キャラクター」は特定非営利活動法人チャイルドライン支援センターの登録商標です。

チャイルドライン®

KEIRIN
公益財団法人ＪＫＡ
競輪補助事業 https://hojo.keirin-autorace.or.jp/